

目次

- 平成 24 年度 大学・大学院入学式 …… 3
- 学長訓辞 学長 川添 堯彬 …… 3
- 理事長式辞 理事長 川添 堯彬 …… 4
- 平成 24 年度 専門学校入学式 …… 8
- 中国人留学生 2 名大学院に入学 …… 8
- 学位・博士（歯学）授与報告 …… 8
- 平成 24 年春の褒章・叙勲受章者 …… 8
- 故太田義邦名誉教授に正五位 …… 9
- 創立100周年記念館起工式 …… 9
- 川添理事長・学長 日本私立大学協会
常務理事等に就任 …… 9
- 大浦教授 歯科基礎医学会理事長に就任 …… 9
- 歯周病学講座・小児歯科学講座教授就任 …… 10

- 教授就任挨拶 梅田 誠 …… 10
- 教授就任挨拶 有田憲司 …… 11
- 日中歯科医学大会 2012 開催 …… 13
- 平成 23 年度 事業報告 …… 14
- 平成 23 年度 監事監査報告 …… 21
- 平成 23 年度 決算報告 …… 22
- 平成 24 年度 解剖体慰霊祭 …… 26
- 歯の衛生週間「カバの歯を検診」 …… 26
- 枚方 6 大学学生部懇談会開催 …… 26
- 平成 24 年度 学内研究助成金 …… 27
- 人 事 …… 28
- あとがき …… 41



平成24年度入学式（平成24年4月5日）

平成24年度 大学・大学院入学式

4月5日(木)午前10時から楠葉学舎講堂において、平成24年度大阪歯科大学ならびに大学院の入学式が開催された。最初に、川添堯彬学長から大学132名(編入4名を含む)、大学院21名(中国人留学生2名を含む)の入学許可の伝達が行われ、入学者を代表して遠藤嵩大さんが入学生宣誓を読み上げた。

川添学長の新入生への訓辞のあと、特待生の表彰が行われ、最後に在学学生有志により学歌が斉唱され、新入生を歓迎した。



学長訓辞

学長 川添 堯彬

寒くきびしい天候が続いた今年の冬もようやく終息し、そこかしこに春の息吹が感じられることとなりました。

本日このよき日に、大学入学生ならびに大学院入学生にとって共に、この日が新しい環境、社会へ向けての決意と誓いの時であり、新たなスタート地点であります。そしてまた、入学生のご父兄・保護者の方々、ご家族の方々にとりまして今日の日が、期待と願いをこめた出発の時と胸に刻んでおられることと拝察いたします。

まず、大学入学者132名の諸君に申します。



最近の風潮かもしれませんが、一部新入生の中には、入学できただけでこのまま時間が経てば歯科医師になれると、のんびりと気が緩んでしまう学生がおります。これは大きな間違いで、これからの長い学生生活を勉学・履修に努め、進級して6年後の国家試験を合格しなければなりません。これは近年、かなりきびしい道のりであります。

そこで私は、モチベーションを6年間持続するために「3つのステップ」の概念を紹介したいと思います。

ファースト・ステップは、まず卒業後の自分の人生、夢をイメージすることを先に行うことであります。歯科医師になったあとの自分の人生のことを夢見、描くことであります。これによって苦しい授業のステップも、目指す道への第一歩として励みとなり、モチベーションが高まります。

セカンド・ステップは、これは誰しも通らなければならない6年間の進級に向け、できるだけ親にも自分にも迷惑をかけないように、早く卒業しようとの決意のもとに学生生活を進んでいただかなければなりません。それが歯科医師の資格を取る最短距離になり、めでたく歯科医師になれます。しかし、これはまだ最終の目標ではありません。

サード・ステップは、社会における自分の活躍とさらにもっと先の生涯の目標である社会貢献であり、公益活動に身を捧げることであり、あるいは究極の目標として、本学の建学の精神にもある「博愛の道」へ少しでも近づいていただくことです。それが今日、歯科医師を目指して入学した諸君の夢であり、ゴールであると私は確信いたしております。

どうぞこの気持ちを忘れないで、歯科医師になるにはこれからきびしい勉学のコースが待っているということを胸に刻み、気を緩めないで、油断しないで進んでいただきたいと思います。それが、ご父兄、保護者にもご迷惑をかけない、親孝行の道でもあると思います。

さて、大学院に入学されました21名の皆さん、本日は誠にありがとうございます。皆さん方は、すでに歯科医師になられ、義務化されました1年間の臨床研修を修了され、その上で難関な試験にも見事に合格された、精鋭揃いであると言っても過言ではないと確信いたしております。

また、ご父兄、保護者の皆様におかれましても、ご

子弟の晴れ姿を目の前にされ、その感慨もひとしおのことと拝察申し上げます。反面、これからの4年間、経済的にも大きな試練が続くことになり、その胸中は複雑な思いが去来していることとお察しいたします。

大学院生の皆さんは、すでに歯学士の免許を取得されておられるわけですが、なお、その上の博士（歯学）の学位を目標とされるわけであります。先ほど、大学入学生に申しましたが、皆さんはセカンド・ステップまでは終えているわけであります。これからがサード・ステップとなり、社会において活躍していただく道を邁進しなければなりません。そのための大学院への進学は極めて尊いことと敬意を表します。

しかし、さらに4年後までのその道のりは決して平坦ではなく、厳しいことも覚悟しなければなりません。それだけに、その志がまっとうできた時の喜びは筆舌には尽くせないものとなるでしょう。そして、二度や三度の失敗にも挫けることなく、努力を重ねていけば必ずや皆さん方が期待していた2倍にも3倍にも相当する満足感と達成感をより強く味わえる研究成果が得られるものと信じ、頑張られますことを希望いたします。

そしてまた、諸君には一人でも多く、海外留学を志してほしいと願います。現に、昨年から海外からの留学生がフルタイムで4年間の大学院コースに3名、本年も2名の方が留学し大学院生となりました。諸君も負わずに海外を目指してもらいたい。大学は全力を上げてこういった将来の有為な青年歯科医師・博士を、それぞれの国から帰国後においても支援する制度を設けています。大いに羽ばたいていただきたいと願いたします。

最後に、大学入学生ならびに大学院入学生両方の諸君へ、医学教育者の父と称えられ、世界の多数の医学生に大きな影響を与え、1919年に亡くなられたウィリアム・オスラー博士がよく引用された言葉を贈ります。もともとこの短い文は、インドの哲学者カーリ・ダーサに由来しています。

——夜明けの勧告に耳を傾けよう。

今日という日に目を向けよう。

これこそ生命、生命の中のいのちなのだ。

その短い行程の中には、あなたの存在の、真理と現実とのすべてが含まれる。

これをもって、学長から皆さん方への訓辞といたします。

理事長式辞

理事長 川添 堯彬

本日、大学ならびに大学院に入学されたそれぞれ132名と21名の方々、両者にこの式辞の言葉を贈りたいと思いません。



本学は1911年（明治44年）に創立されました。昨年11月には、その100周年を記念する行事を執り行いました。本学はそういった伝統に支えられた大学でございます。あなた方も今日から、我々とともに諸先輩の築かれた大学愛、母校愛、そして同窓としての絆を汚すことなく受け継いでいくわけであります。

本学の創設者であります藤原市太郎先生は、明治44年12月12日にある思いを抱いてこの学校を創立されました。その当時、日露戦争が終結して間もない頃で、まだ世の中は騒然とし、社会は経済的にも緊縮状態であったと思います。その中であって、藤原市太郎先生はこの大学を現在の大阪市福島区野田4丁目に創立されたわけでございます。

その思いとは「学校経営事業は営利に非ず、博愛公益のために努力するものなること」、この言葉が2代目の理事長であります古川賢治先生に申し伝えられ、この言葉だけは絶対に受け継いでいってほしいとバトンを渡された大変尊い、また貴重な、崇高な建学の精神であります。

そして私は、この100周年の記念事業の中で発見しましたのは、100年経ってもこの言葉はこれほど輝いて、またこれほど有益で私たち学ぶ者の心を勇気づけてくれる言葉はないのではないかと。この言葉は、外国、アジア諸国のみならず世界中のどの国にいても、胸を張って通じるスピリットではないかと。そういうことを昨年、改めて見出したわけでございます。マザー・テレサの博愛の精神を思い出すまでもなく、これは本学に脈々と続いていることを実感するわけであります。

どうか皆さんも、この精神を少しでも実践に向けて活動するとともに、究極の目標としていただき、また後輩にもこのスピリットを引き継いでいっていただきたいと思ひます。この言葉は、まさに学部学生諸君に

とりまして、大学院生諸氏にとりまして、時や国を超えて通じるものであると思います。今日、これほど気高く誇れる言葉は他にありません。とても私たちは、これをすぐには達成できそうにはありませんが、すこしでもそこへ向かって進む志を持ちたいし、そのような崇高な精神であると思います。

この本学の建学の精神を、今、私も大切に守りたいと胸に銘記しているところであります。どうかこの精神を、諸君たちはこの6年後あるいは4年後も、どうかお忘れのないように進んでいっていただきたいと思ひます。

以上、理事長式辞といたします。







平成24年度 専門学校入学式

4月9日(月)、大阪歯科大学歯科技工士専門学校ならびに歯科衛生士専門学校の入学式が開催された。歯科技工士専門学校に入学した第49期生15名、歯科技工士専攻科の第34期生5名ならびに特別研究生1名、歯科衛生士専門学校に入学した専門第38期生54名に対し、末瀬学校長から入学許可が宣された。



末瀬学校長は、新入生75名に対し、現在は歯科医療技術者の専門性が評価される時代であり、専門知識・技術の修得に努めるとともに人としてのやさしさ、思いやりの心も大事であると述べた。また、本田宗一郎氏の言葉「チャレンジして失敗を恐れるよりも、何もしないことを恐れよ」を新入生に贈った。



左から方一如教授・苏英敏さん・李佩祺さん

学位・博士(歯学)授与報告

神 光一郎 乙第1574号 (平成24年6月27日)

Analysis of dental caries in junior and senior high school students by birth-year cohort
(Birth-year Cohort による中高生の齲蝕罹患状況に関する検討)

平成24年 春の褒章・叙勲受章者

平成24年春の褒章・叙勲において、大阪歯科大学関係者として以下の先生方が受章されました。

褒章

大学 19 回 福島 善彦 高知県 藍綬褒章

叙勲

専門 31 回	成瀬 悟	大阪府	瑞宝小綬章
大学 3 回	嘉ノ海昭吾	兵庫県	旭日双光章
大学 5 回	加藤 裕	岐阜県	瑞宝双光章
大学 6 回	上羽 隆夫	関東支部	瑞宝中綬章
大学 6 回	佐藤 惇	広島県	瑞宝双光章
大学 7 回	今岡 久	奈良県	瑞宝双光章
大学 12 回	井上 裕之	島根県	旭日双光章
大学 13 回	水野 良行	広島県	旭日双光章

中国人留学生 2 名大学院に入学

中国からの留学生2名が大学院に合格し、4月5日の入学式に出席した。大学院に入学したのは李 佩祺さんと苏 英敏さんで、ともに本学と学术交流協定を結んでいる南方医科大学の出身。李さんは歯科矯正学、苏さんは欠損歯列補綴咬合学を専攻し、それぞれの指導教授のもとで4年間の研鑽に努める。

中国からの大学院留学生は昨年の3名と合わせて5名となった。

故太田義邦名誉教授に正五位

去る平成24年6月6日に亡くなられた太田義邦名誉教授が、同日付で正五位に叙された。

故太田名誉教授は、昭和45年6月から平成7年までおよそ25年の長きにわたり解剖学講座の教授を務め、黄菊会の育成などに貢献した。退職後は本学名誉教授に就任した。

創立 100 周年記念館起工式

平成24年4月17日、創立100周年記念事業のひとつである「創立100周年記念館」の起工式が、天満橋学舎において執り行われた。起工式には、川添堯彬理事長・学長を施主に大学はじめ工事関係者が多数出席し、生國魂神社の神事により祝詞が奏上された。記念館の建設には、同窓生はじめ大学関係者および関連企業から多くの寄付金が寄せられた。竣工は平成24年度中を予定している。



川添理事長・学長 日本私立大学協会常務理事等に就任

平成24年4月27日、川添堯彬理事長・学長が日本私立大学協会常務理事に就任した。任期は平成24年4月27日から平成28年3月31日までの4年間。また、川添理事長・学長は6月29日、日本私立歯科大学協会の副会長にも就任、任期は平成25年3月31日までである。



さらに、平成24年7月1日から平成26年3月31日までの任期で、文部科学省の歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議委員に就任された。

大浦教授 歯科基礎医学会理事長に就任

薬理学講座の大浦 清教授が、平成24年4月1日付で歯科基礎医学会理事長に就任した。任期は平成27年3月31日までの3年間。大浦教授は、就任の挨拶のなかで次の10項目について、できるところから進めていきたいと抱負を述べた。



- ・透明性の高い学会運営
- ・若手研究者の育成、ポスドクなど若手研究者の流動性支援
- ・学会開催時の公開講座をはじめ、社会への情報発信の促進
- ・学会誌のPub Med掲載、インパクトファクターの獲得
- ・臨床系学会との連携
- ・国際学会との連携
- ・法人化の検討
- ・評議員、理事の選考方法の検討
- ・大学院生および学部学生を含む会員の増強および会費の検討
- ・基礎研究を促進し、その成果を生かしたトランスレーショナルリサーチの推進

歯周病学講座・小児歯科学講座教授就任

平成23年10月1日付で、歯周病学講座の主任教授に梅田 誠先生、小児歯科学講座の主任教授に有田憲司先生がそれぞれ就任された。遅くなりましたが、ご挨拶を紹介します。

歯周病学講座教授

梅田 誠 (うめだ まこと)

歯学博士

昭和32年生まれ、54歳

<学 歴>

- 昭和52年4月 東京医科歯科大学歯学部入学
昭和58年3月 東京医科歯科大学歯学部卒業
昭和58年4月 東京医科歯科大学大学院歯学研究科博士課程入学
昭和62年3月 東京医科歯科大学大学院歯学研究科博士課程修了
昭和62年3月 歯学博士の学位取得 (東京医科歯科大学)
<職 歴>
昭和62年4月 東京医科歯科大学助手
平成 7年7月 東京医科歯科大学学内講師併任
平成 8年3月 文部省在外研究員(南カリフォルニア大学)
平成12年4月 東京医科歯科大学大学院助手
平成19年4月 東京医科歯科大学大学院助教
平成23年1月 東京医科歯科大学大学院講師
平成23年10月 大阪歯科大学教授 (歯周病学)
平成23年12月 大阪歯科大学大学院教授 (歯周病学)

小児歯科学講座教授

有田憲司 (ありた けんじ)

歯学博士

昭和28年生まれ、59歳

<学 歴>

- 昭和49年4月 大阪歯科大学入学
昭和55年3月 大阪歯科大学卒業
昭和55年4月 大阪歯科大学大学院歯学研究科博士課程入学
昭和59年3月 大阪歯科大学大学院歯学研究科博士課程修了
昭和59年3月 歯学博士の学位取得 (大阪歯科大学)

<職 歴>

- 昭和59年4月 徳島大学歯学部附属病院医員
昭和59年7月 徳島大学歯学部助手
昭和60年4月 徳島大学歯学部附属病院講師
平成元年11月 米国ペイラー大学歯学部留学
平成 3年11月 徳島大学歯学部助教授
平成 8年7月 徳島大学医療技術短期大学部講師併任
平成13年4月 徳島大学総合科学部講師併任
平成19年4月 徳島大学大学院准教授ヘルスバイオサイエンス研究部
平成23年10月 大阪歯科大学教授 (小児歯科学)
平成23年12月 大阪歯科大学大学院教授 (小児歯科学)

教授就任挨拶

歯周病学講座 梅田 誠



大阪歯科大学主任教授会の選出および法人理事会の承認を得て、平成23年10月1日付で歯周病学講座教授を拝命いたしました。当講座は歯槽膿漏科、歯周病科を経て昭和43年7月に歯周病学講座初代教授として山岡昭先生がご就任され、平成7年8月に二代目教授として前理事長・学長の今井久夫先生がお継ぎになり、平成18年10月に三代目教授として上田雅俊先生がお継ぎになりました。先生方は内外で素晴らしい活躍をされてきましたが、私は先生方の残された業績に恥じぬよう、教職員の皆様、同窓会、歯科医師会、学会関係者の皆様方のご支援、ご指導ならびにご協力を得て、教育、研究、臨床に力を尽くしていきたいと考えております。何卒よろしく願い申し上げます。

人間性豊かな国民の口腔の健康、歯科診療において広く社会貢献できる歯科医師の養成

教育においては、一貫したカリキュラムのもと学力の向上に努めるとともに、人間性豊かな国民の口腔の健康、歯科診療において広く社会貢献できる歯科医師を養成することを目指します。人間性豊かな歯科医師を育成するため、外来での研修を行い、まずきちんと

患者さんにあいさつができ、患者さんと良好なコミュニケーションが取れるように教育します。入学した学生に対しては、学生目線でのサポートを心がけ、項目ごとに目標をきちんと立て細かくフィードバックを行うことで、すべての学生が支障なく勉学が続けられることを目指します。CBTに注力してCBTに1回で合格できる学力を養成できるよう取り組み、国試合格への学力の向上を図ります。国試に90%以上合格する目標を持ち、効果的な学力の向上を図ります。5年生、6年生において特に重点的に学力向上を図り、学生ごとに細かくポイントを把握できるように工夫し、精神面でも国試受験に対する手厚いサポートを進めていきます。また、学生が国際的な視点を高めることができるよう、英文紙の読解を指導・サポートし、国際交流を支援して学生の勉学への積極性が向上するようにいたします。

これまでの研究の流れを尊重した、大学院として魅力あるテーマの設定

研究においては、大学院の魅力を高めて入学希望者の増大を目指します。そのために、臨床的に興味の高いテーマの柱をきちんと設定し、基礎の講座や外部とも広く連携して研究の幅を広げたいと考えております。上田雅俊前教授のこれまでの研究の流れを尊重し、さらに発展させていきたいと考えております。研究においては、薬剤の局所投与、歯周病と全身疾患、バイオフィルム細菌関係など共通点が多くあり、臨床に役立つことを目指したわかりやすい研究という方向性も共通です。また、円滑な研究遂行の為、申請時に教室の先生方と積極的に相談してできるだけ多く科学研究費の獲得を目指します。共同研究も積極的に進め、臨床的に興味深い研究成果を発信していきたいと思っております。私は、これまで中国、ミャンマー、台湾、スリランカの留学生の研究指導を行ってきましたが、留学生を積極的に受け入れ指導していきます。現在、私は日本歯周病学会専門医委員会委員であります。歯周病専門医コースの設置も推進していきたいと思っております。

教員のモチベーションを上げ、患者満足度の向上を目指す

教員については、それぞれの長所を伸ばし、教育、研究、臨床のそれぞれの得意分野で重点的に評価を行い、個々のモチベーションを高めたいと考えます。特

に、3年生から学生の興味を引き、印象に残るよう講義・実習を工夫し、国試の合格率を上げるため、5～6年生の教育に教員の力を結集するよう努力いたします。

臨床において、第一に患者さんの満足度を高める努力をいたします。患者さんの訴えをよく聞き、最終的なゴールをきちんと説明し、先進医療も積極的に取り入れていきます。他の診療科とも連携し、レーザーや再生治療など先端的な分野で、大阪歯科大学ならではの高度な治療で、患者さんから信頼と注目を集められるよう精進してまいります。

終わりに、大阪歯科大学は100年の長い歴史と伝統を持ち、今日まで多くの優れた歯科医師や歯科界で活躍する傑出した先輩達を輩出してきました。本学はその歴史と伝統に恥じぬよう、引き続いて輝いていかなくはなりません。私は、そのために微力ながら積極的に取り組んでいきたいと考えておりますので、教職員皆様方のご支援とご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。



教授就任挨拶

小児歯科学講座 有田憲司



運命的な母校復帰

大阪歯科大学主任教授会の選出および法人理事会の承認を得て、平成23年10月1日付で小児歯科学講座3代目主任教授を拝命いたしました。私は昭和55年本学を卒業し（第28回）、大学院



で小児歯科学（稗田豊治教授）を専攻しました。昭和59年、大学院修了後徳島大学小児歯科学講座に就職し、昭和60年講師、その後助教授・准教授を20年間務めました。幾分かの業績を残し徳島大学には貢献できたかなと自分の人生を振り返っていた矢先、想像にもしなかった母校復帰が、それも大阪歯科大学創立100周年の記念すべき年に実現することとなりました。運命的な何かを感じずにはられません。

私が27年間国立大学で孤軍奮闘できたのは、大阪歯科大学の教育への絶対的信頼と自信、母校への愛校心とプライドがあったおかげです。このご恩をお返しす

るために、ぜひとも教職員の皆様とともに大阪歯科大学の改革と発展のお手伝いをさせていただきたいと思っております。

役割は「裸の王様」の小さな子どもになること

大阪歯科大学は、100年の伝統と多くの傑出した先達を歯科界に輩出してきた実績とをあわせ持った「藎藎たる大樹」です。しかし、大樹であろうともいつかは枯れる運命であり、新たな芽を出し育てなければなりません。大阪歯科大学はこれからの10年間で正念場であることは間違いありません。その真っ直中に就任した私は何をなすべきか。言うまでもなく、川添理事長・学長の方針を着実に実行していくことです。さらに、私は大阪歯科大学に新たな発芽を促す新風を吹かす使命も担っていると勝手に思い込んでおり、そのためにアンデルセンの童話「裸の王様」に出てくる小さな子どもの持つ真理を見抜いた新鮮「眼」と恐れずに自分の考えを言える勇氣ある「口」を持つと決意しています。

「考える」から「学ぶ」教育へ

平成14年、私はアメリカの歯科教育を学ぶためハーバード大学、タフツ大学、ボストン大学の3歯学部を視察しました。3大学はいずれも臨床技能教育を重視し、教員は歯科医師を養成するという明確な目標に向かって、熱心に教育に取り組んでいました。小グループでのPBLチュートリアルやチーム基盤型学習（TBL）など「自分で学ぶ」能動型学習が多用されており、学生は学習意欲が高く勉強量も多いのですが、さすがに2度と歯学部には帰りたくないと思いを上げていました。

わが国では、“国民から信託された幅広い見識と豊かな人間性を有し、患者中心の医療を実践できる歯科医師”を養成することになっています。歯科医師は、医療スタッフを動かして病める人々を助ける職業であり、歯科医師国家試験に合格しただけでは歯科医師は務まりません。他人の気持ちが分かり、自分で問題解決できる自立した人間となる必要のある厳しい職業です。この道を選んだ以上、学生自らの努力で他人から信頼される人間となる義務があり、これは教員も保護者も手伝えることができないことで、自ら学ぶ能動的な教育に改革していく必要があると考えます。

ところで、学生の学習を一次方程式に表すと、 $Y = aX$ [$X =$ 講義・教科書等による学習 (= 勉強時間), $Y =$ 知識の記憶・理解 (= 成果), 係数 $a =$ 脳の働き (= 意欲)] となります。つまり、学生の脳がプラスに活かしなければ、いくら先生たちが努力しても学習効果は上がりません。教員の最も重要な仕事は学生の「意欲」を高めることです。そのためには、学生に大阪歯科大学の輝かしい歴史を教え、そこに学ぶ誇りとプライドを養い、歯科医学・医療の「面白さと責任」を説いて歯学への興味を培い、歯科医師となる覚悟と誇りを涵養していく努力が肝要です。また、脳を活性化させる最良の方法は体験をもとに学ばせることで、上手く運用できれば臨床実習が最も有効な学習法となります。結論的に言えば、私は歯科医師国家試験合格率の向上のポイントは、学習意欲の向上と小グループでの協同学習であると考えます。

イノベーションを興す。

キーワードは“Smart materials”

良い教育を達成するために、世界的にすぐれた研究と、高度な臨床を行う必要があるのだと考えています。小児歯科学は小児を対象とした臨床歯科学すべてを包括した学問であり、発達生物学、発達心理・行動科学および社会生理学など学際的研究が関係します。私は、これまでに歯の交換に関する研究、行動科学に関する研究、小児齲蝕のフィールド研究、歯列・咬合の成長発育に関する研究などの研究を行ってきました。現在、最も力を入れているのは、生体材料学に関する研究で、新規アパタイトアイオノマーセメント（AIC）の開発・商品化と、イオン工学を応用した歯科材料表面への抗菌性および歯垢付着抑制効果の付与に関する研究で、歯科医療に“Smart materials”を普及させ、イノベーションを興すことを目指しています。

小児歯科・障害者歯科のパラダイムシフト

近年、小児の口腔疾病構造の変化により小児歯科は従来の齲蝕の予防と治療中心の科から、咬合誘導治療、小児口腔外科や外傷歯の処置、顎関節症の治療、摂食・嚥下機能の発達療法など広範囲な口腔疾病と口腔機能障害を治療・訓練する科へと変革が求められています。さらに、不登校、摂食障害など心理的問題を持つ患児や、軽度発達障害、自閉症など障害児の増加が報告さ

れており、シングルマザー、育児不安の強い母親、被DVの母親も増えており、歯科治療だけでなく、子どもと母親の心理的ケアをも配慮した新しい小児歯科医療が必要となっています。一方、医科では生涯の後半で出現してくる疾病の原因が小児期にあることが明らかにされるようになって、小児期の健康の重要性が認識されるようになり、小児医療は胎児から始まって、新生児・幼児・学童・思春期を経て次世代を生き育てる成人世代の健康まで、ライフサイクルを連続的・包括的に捉える成育医療へと変化しています。

このような時代の変化を見据え、当小児歯科でも今後「子どもだけの小児歯科」から「世代を繋ぐ成育型小児歯科」へパラダイムシフトする計画です。障害者歯科においても、「疾患治療中心の障害者医療」から「低年齢からの管理による歯科疾患の予防と口腔機能のリハビリテーションを軸とした北欧型の障害者医療」へとパラダイムシフトする計画です。これらの変革により、患者数の増加を目指します。

最後に、28年ぶりに帰ってきた浦島太郎状態の私に対してすぐに暖かく細やかなご支援・ご指導の手を差し伸べ、優しく受け入れていただいた、母のような故郷大阪歯科大学に心より感謝申し上げます。私は、座右の銘である「励学濟世」を実践し、大阪歯科大学ならびに小児歯科学講座の益々の発展のために全力を尽くす覚悟です。今後とも、川添理事長・学長、各教授、ならびに教職員の皆様のご指導とご支援をよろしくお願ひ申し上げます。

日中歯科医学大会 2012 開催
日本歯科医学会国際交流委員 方 一如

「日中歯科医学大会2012」が、中国四川省の成都市において四川大学華西口腔医学院の主管のもと、平成24年4月26日～28日の3日間にわたり開催された。日中歯科医学大会は日中両国の友好親善、歯科医学分野の進歩発展を目的に1999年に第1回大会が北京で開催され、その後2002年に北京、2005年に上海、2008年に西安で開



催された。今回は、日中国交正常化40周年にあたり日中とも多数の歯科医学関係者が出席した。

近年における日本と中国との歯科全体レベルでの学術交流は、1989年に(財)日中医学協会の仲介で日本歯科医学会が砂田今男会長を団長に訪中したのが始まりで、この時に中華医学会口腔科学会(張 震康会長)と協議を行い、その後の両国学会の密接な交流の礎が築かれた。1992年には、日中国交回復20周年を記念して「日中医学大会1992」(北京市)が開催され、日本歯科医学会は傘下の14専門分科会から160人が参加した。1996年11月に、口腔医学会(張 震康会長)が中華医学会から発展的に独立して中華口腔医学会が設立され、日本歯科医学会はこれを機に、日中の交流、連携を強めるべく「日中歯科医学大会1999」(北京市)を開催し、日本から320人が参加した。2002年には日中国交回復30周年を記念して「日中医学大会2002」(北京市)が開催され、歯科分科会には日本から200人が参加した。さらに2005年には上海で「日中歯科医学大会2005」、2008年には西安で「日中歯科医学大会2008」が開催された。そして今回、「日中歯科医学大会2012」が成都で開催されることとなった。

開会式には、中国から中華口腔医学会の王 興会長、中国医師協会口腔医師分会の俞 光岩会長、中華口腔医学会副会長で四川大学華西口腔医学院の周 学東院長、中華口腔医学会副会長で西安第四軍医科大学口腔医学院の趙 鈇民院長および中華口腔医学会の黄 洪章副会長が出席した。日本からは、日本歯科医学会の江藤一洋会長、日本歯科医師会大久保満男会長の代理中島信也常務理事、副大会長の日本歯科大学中原 泉理事長・学長、副大会長の大阪歯科大学川添堯彬理事長・学長および副大会長の東京歯科大学の金子讓理事長が出席した。ジャパンナイトにも、俞 光岩会長、周学東院長、黄 洪章副会長が出席し、日中両国合わせて約500名の代表が出席した。

日中両国6名の研究者によるインプラント、矯正、補綴、口腔外科分野の特別講演が行われ、一般講演では11名の口演発表、国際セミナーでは日本、韓国、タイから3名が発表、さらに276題のポスター発表が行われた。日本の出席者は206名、中国の出席者は132名で、大阪歯科大学からは73名が参加し、日本で最も多い51題の発表を行った。

3日間、日中両国の歯科医学・医療関係者が一堂に会

して、現在の歯科医学の先進的医療技術を総合的に研修し、また研究発表を行い、参加者がこの会期中に得られた貴重な経験や情報を学術研究や日常臨床に活用されるとともに、さらに歯科医学を通じて日中協力の発展にご尽力いただきたいと思います。



平成23年度 事業報告

— はじめに —

平成23年度は、本学が創立100周年を迎えた年であり、平成23年11月11日に開催した記念式典を始めとする創立100周年記念事業に担当者だけでなく教職員が一丸となって取り組んだ。

平成23年10月11日、記念行事の最初は大阪市福島区野田4丁目の野田緑道に発祥の地・記念碑を設置し、除幕式を執り行った。10月29日からは楠葉学舎4号館において「歯科医学の歴史的資料展示室」を開館した。11月11日には、創立100周年の記念慰霊祭、記念式典、祝宴を大阪国際会議場ならびにリーガロイヤルホテル大

阪で開催した。翌12日には、記念講演会をリーガロイヤルホテル大阪で開催した。また、記念事業の一環として「創立100周年記念館」建設を目的とする記念事業募金、大学100年史等の記念出版物に取り組み、「創立100周年記念館」建設委員会を立ち上げた。

一方、私立歯科大学を取り巻く厳しい状況に対応するため、学生教育への注力を継続して展開し、「五つの力（りょく）の目標」である①募集ブランド力の回復、②学力の向上、③教育力の向上、④人間性涵養力への注力、⑤教員人材育成力への注力に加え、平成23年1月に「三つの力」の追加目標を立て、平成23年度から、①学生の国際交流力増強、②大学院力の増強、③研究力の向上を図った。

大学の運営にあたっては、教育、研究、診療の三本柱を基本に据え、両専門学校との連携により総合的な歯科医学教育機関、歯科医療機関としてさらに充実・発展させるべく取り組みを進めた。また、昨今の厳しい歯科界の状況に鑑み、大学および附属病院ならびに専門学校の経営の更なる効率化に努めた。

最後に、創立100周年を機に、創立者藤原市太郎先生が遺された「博愛公益」の精神を本学の建学の精神として再確認し、学生教育に取り入れることとした。

本学の沿革

本学は、明治44年に設立された大阪歯科医学校を母体としている。大正6年には大阪歯科医学専門学校となり、昭和22年に旧制大阪歯科大学へ昇格し、昭和27年に新制大阪歯科大学となった。昭和36年に大阪歯科大学大学院歯学研究科博士課程を設置した。昭和39年に大阪歯科大学歯科技工士専門学校、昭和43年に大阪歯科大学歯科衛生士専門学校を設置した。

法人組織としては、大正6年に財団法人大阪歯科医学専門学校を設立した。昭和22年に財団法人大阪歯科大学、昭和26年に学校法人大阪歯科大学に変更となった。

平成9年4月、楠葉新学舎へ大学機能の移転を完了した。天満橋学舎に新附属病院本館を建設した。

平成23年11月、創立100周年記念式典を挙行了した。

平成23年度事業計画

- I. 教学（教育、研究）
- II. 大学院力の増強目標

Ⅲ. 教育人材育成力の改革

Ⅳ. 附属病院の改革

Ⅴ. 両専門学校の将来像

Ⅵ. 特別重点計画

I. 教学（教育、研究）

1. 募集ブランド力の向上
2. 入学時学力（第一次学力）
3. CBT学力（第二次学力）
4. 人間性涵養力（教育力）
5. 学士学力（第三次学力）

本学は「博愛公益」を最終目標としており、すぐれた歯科医師を養成することを通して広く社会貢献することが教育の目的である。そのため、教育および研究環境の整備に努めながら不断の教育改革を進めてきた。

平成14年度から「カリキュラム2000」を実施し、「知識教育」、「技能教育」、「態度教育」で構成され、臨床実習の開始を前にした第4学年次に臨床実習生としての能力を試す「共用試験（CBT, OSCE）」の実施へ向けて、学内環境の整備を行った。第5・6学年の講義のために平成25年3月完成の創立100周年記念館について、建設委員会を設置して鋭意検討を行い、一層の教育環境の充実を図っていくものである。

○大学学部入試結果

歯科大学を志望する学生が減少する中、大学の認知度・好感度を向上させるべくオープンキャンパスを4回実施した。参加者の延べ人数は238名で、前年度の221名より17名増加した。オープンキャンパスでは、現役生による学生生活の話なども取り入れ本学への親近感を高める努力をしている。また、本学のHPやルート進学ネットに大学案内を掲載し、本学への注目度を高めネットを通じた入試資料要求も増加している。

入学者選抜方法としては、一般入学試験（前期・後期）、推薦入学試験（公募・指定校）であり、順調に実施された結果、128名の募集人員を充足した。また、新たに開始した編入入学試験により、第2学年に4名が編入となった。入学者選抜方法は、学生確保の視点と歯科医師国家試験合格率の視点の両面から検証する必要があり、その結果を入試選抜方法（募集人数）にフィードバックさせることが重要である。

○アドミッションポリシーの改正とカリキュラムポリシー、ディプロマポリシーの制定

入学生受け入れ基準としてのアドミッションポリシーは、従来から制定されていたが、創立100周年を経た教育実績を踏まえて今回改正した。また、新たに教育課程編成・実施方針であるカリキュラムポリシーと、学位授与方針であるディプロマポリシーを制定した。

アドミッションポリシー

大阪歯科大学は2011年に創立100周年を迎えました。この歴史的歩みのなかで、歯科界に多くの優れた人材を輩出してきました。私たちは、先輩が築いた礎を守りながら、建学の精神と歴史に裏付けられた教育方針に沿って、新時代の歯科医療を担う人材の養成を目指しています。

- ・ 歯科医師として社会に貢献し奉仕する使命感と気概を持つ人
- ・ 専門的知識、技能、態度を修得するために着実に努力する人
- ・ 国際的な視野に立って歯科医学の発展と歯科医療を担う熱意がある人

カリキュラムポリシー

次の100年に向かって歯科医学・歯科医療を担う人材を養成します。

- ・ 知識、技能および人間性を具えた歯科医師の養成を行うカリキュラムを編成しています。
- ・ 学生が意欲をもって学習でき、国家試験への備えとしても万全の科目を設けます。
- ・ 学生中心主義に基づき、学生と教職員とのふれあいの場を数多く設置します。
- ・ 患者さんへの思いやりや温かな心をもった歯科医師の育成に必要な教育を行います。

ディプロマポリシー

人間として、歯科医師として素養を高めた人材を輩出します。

- ・ 専門的知識、技能、態度を修得し、国民の健康な生活を確保する能力を身につけている。
- ・ 汎用能力および危機管理能力をもち、絶えず研鑽を積む習慣を身につけている。
- ・ 地球規模で新時代の歯科医学と歯科医療を構築す

る能力を身につけている。

○第105回歯科医師国家試験結果

新卒者は100名受験し合格者は64名で合格率64%、既卒者を含めると157名が受験し合格者が77名で合格率は49%であった。新卒者の私立歯科大学・歯学部の合格率は78.4%であった。合格率が低迷した原因を検証する必要がある。

○新カリキュラムの実施を検討、平成24年度導入を決定

平成14年から実施してきた「カリキュラム2000」について、カリキュラム委員会等で検討を重ねた結果、平成24年度入学生より「新カリキュラム」を実施することとなった。

新カリキュラムは、明確な学年制を敷いており、次の11のコースが基本構成となっている。

- (1) 態度教育
- (2) 教養教育
- (3) 語学・情報科学教育
- (4) 基礎科学教育
- (5) 基礎系歯科医学教育
- (6) 社会系歯科医学教育
- (7) 臨床系歯科医学教育
- (8) 総合医学教育
- (9) 第1～4学年歯科医学統合教育
- (10) 歯科臨床教育
- (11) 歯科医学統括教育

○段階的学力到達度について

入学時学力、CBT学力、学士学力と段階的に学生の学力到達度を向上すべく努力してきたが、今回の国試の結果を受け、さらに学年単位での到達目標を定め専門知識の習熟度を高めていく必要がある。

○学生生活指導

在学生の態度規範向上に関して、本学教員が、学生の登学時に楠葉学舎正門で挨拶を行う取り組みを行った。平成23年6月に全学生を対象に薬物乱用防止講演会を実施した。

○学習機会の拡大・充実

本学図書館では、学習機会の拡大充実のため、開館時間の延長を継続している。なお、学生一人当たりの図書貸出冊数は14.8冊で、昨年度に引き続き私立歯科大学・歯学部中Aランクに位置している。

○学生の国際交流

平成23年度は、次の諸外国大学と学術交流協定を締結した。

- ・イギリス
カーディフ大学歯学部
キングス・カレッジ・ロンドン
- ・ハンガリー
ゼンメルヴァイス大学歯学部
- ・ベトナム
ハノイ医科大学

II. 大学院力の増強目標

1. 大学院生の入学倍増計画
2. 募集定員の拡大、社会人入学の拡大
3. 外国人入学・受入れの奨励
4. 専門医の課程、修士課程の増設

研究機関としての大学を活性化させるため、その中枢をなす大学院の増強計画に取り組んだ。大学院を充実させることは、将来の優れた研究者・教育者を確保し大学を発展させていくうえで重要な課題である。

大学院の定員(1学年30名)を充足させることが大学院の活性化を図る第一歩であるが、平成24年度は21名の入学となった。さらに、研究環境、指導体制の充実を図り、募集定員の拡大、社会人入学を推進していく。

平成23年度から実施している外国人留学生特別選抜入試では、学術交流校である中国の大学から2名の学生が入学となった。

また、専門医コースの設置および修士課程の増設については、それぞれ設置に向けて検討を進めた。大学院修士課程については、大学院修士課程設置準備委員会が設置された。

本学大学院50周年記念講演会については、5回にわたり本学教員、大学院生の出席者のもとに開催された。また大学院FD研修会が10月21日(金)に行われ、教員29名が参加した。

- ・第1回 平成23年9月2日（金）15時～
「腫瘍血管特異性の解明と新たな血管新生阻害療法への応用」
樋口 京子氏（北海道大学大学院歯学研究科特任准教授）
出席者数：教員5名，大学院生27名 計32名
- ・第2回 平成23年9月8日（木）15時～
「歯髄再生による新しい歯内治療法の開発」
中島美砂子氏（国立長寿医療研究センター 歯科口腔先進医療開発センター部長）
出席者数：教員12名，大学院生21名 計33名
- ・第3回 平成23年9月16日（金）15時～
「理系のための研究生活ガイド」
坪田 一男氏（慶応義塾大学医学部教授）
出席者数：教員11名，大学院生15名 計26名
- ・第4回 平成23年9月29日（木）15時～
「抗菌薬の考え方，使い方」
岩田健太郎氏（神戸大学大学院医学研究科教授）
出席者数：教員9名，大学院生21名 計30名
- ・第5回 平成23年10月6日（木）15時～
「HIV感染症・AIDSに対する治療薬の研究と開発：成功，失敗，そして挑戦」
満屋 裕明氏（熊本大学医学部教授）
出席者数：教員14名，大学院生28名 計42名

Ⅲ. 教育人材育成力の改革

1. 教員評価－実施結果の分析と報奨・顕彰
2. 第5・6学年を天満橋学舎で一貫教育
3. 講義室・自習室の増設

教育人材育成力については、教員評価を実施し教員一人ひとりが教育力、教育方法の改善を図ってきている。また、臨床系教員が教育力を十分に発揮するため、5年生と6年生を天満橋学舎で一貫教育を行うべく講義室・自習室を整備した「創立100周年記念館」の建設計画を進めた。

また、教員の資質向上を図るFD研修会については、FD委員会が積極的に企画立案を行い、精力的に実施した。

○各種補助金・助成金関係

平成23年度における私立大学等経常費補助金

一般補助は、4億6504万7千円で、そのうち特別補助は、3806万1千円である。内訳は次のとおりで多岐にわたっている。

- ・成長分野で雇用に結びつく人材の育成（社会福祉施設体験学習）
- ・大学等の国際交流の基盤整備への支援（留学生特別選抜）
- ・大学院における研究の充実（大学院歯学研究科）
- ・研究施設運営支援（中央歯学研究所）
- ・戦略的研究基盤形成支援（ハイテク・リサーチ・センター）
- ・産学連携の推進（知的財産委員会設置）

平成23年度私立大学等研究設備整備費等補助金（私立大学等研究設備等整備費）

「次世代ゲノムシーケンサーシステム一式」
交付額：1,081万1千円

平成23年度私立学校施設整備費補助金（私立学校教育研究装置等施設整備費（私立大学・大学院等教育研究装置施設整備費）

「コンピュータ教室・マルチメディア教室整備事業」
交付額：1,073万3千円
CBT，語学教育に対応する教室の整備事業に対する補助金である。

平成23年度における科学研究費補助金

本学の交付状況は、次のとおりである。
基盤研究（C）33件，挑戦的萌芽研究1件，若手研究（B）17件，研究活動スタート支援1件，合計52件
補助金額 6,840万円
間接経費 2,052万円
合計 8,892万円

文部科学省ハイテク・リサーチ・センター整備事業

平成19年度から5年度間にわたり行っているもので、事業名は「歯周病に対する戦略的研究」である。「歯周病とメタボリックシンドロームとの双方向性発症の解明」，「歯周組織の再生を促進する分子・細胞学的解明」について研究成果が得られつつある。研究活動の一層の発展を祈りたい。

厚生労働省 生育医療研究委託事業費(生育医療研究開発事業費)

1件 100万円

独立行政法人科学技術振興機構 研究成果最適展開支援事業 (フィージビリティ【PS】ステージ検索タイプ)

1件 130万7,693円

公益財団法人上原記念生命科学財団 (海外留学助成リサーチフェローシップ)

1件 250万円

公益財団法人住友財団「基礎科学研究助成」

1件 150万円

公益財団法人池谷科学技術振興財団「研究助成」

1件 130万円

○平成23年度における施設設備関係整備工事

天満橋学舎において、各医員の緊急連絡用としてPHSの導入が検討のうえ決定され、附属病院PHS新設工事が行われた。

○地域との交流

市民を対象とした公開講座(テーマ:「いつまでも魅力的であるために」)を開催した。

また、市民へのグラウンド(長尾)、テニスコート(楠葉)の開放、枚方市主催のシンポジウムへの会場提供(楠葉学舎講堂)などの施設開放、さらに枚方市にある6大学と市長で構成される「学園都市ひらかた推進協議会」、大阪府下の大学で構成される大学コンソーシアム大阪の取り組みに参加した。

IV. 附属病院の改革

1. 収支改善による健全経営戦略
2. 先進医療の態勢整備
3. 病院運営貢献者への顕彰・報奨
4. B/C考慮の支出、経費の見直し
5. 各部署の収支改善策を提案・実行

附属病院については、収支改善を目標に改革を進め

てきており、平成23年度の病院収入については、大学全体の収支状況を考慮すると、さらに効率的な運営と抜本的な改革を進めていく必要がある。

病院運営の効率化・スピード化を図るため、現状の問題点を洗い出していく必要がある。収支改善に向けた意識を共有することにより、慣習化した体質を改善していかなければならない。病院の抜本的な改革を進めるため、新たに病院の経営改善を図る委員会の設置を検討した。

○歯科医師の派遣

平成23年3月11日に発生した東日本大震災に際して、日本歯科医師会の要請を受けて、本学から歯科医師3名を現地へ派遣登録した。

継続している社会福祉法人阪神福祉事業団センター診療所、日本放送協会(大阪放送局)への派遣、白浜アドベンチャーワールドの動物歯科検診を行った。

○臨床研修教育

平成18年度から必修化された歯科医師臨床研修教育に関しては、制度発足当初から積極的に取り組んでいる。症例報告会が3月15日(木)に、修了証書授与式及び症例報告会の表彰が3月27日(火)に行われた。

修了者は、プログラムS(単独型)31名、プログラムC(複合型)88名、合計119名であった。研修歯科医受入施設は、55施設であった。

○病診連携講演会(懇談会)

平成23年度で9回目の講演会が、平成24年2月26日(日)に開催された。

○地域医療連携室の設置

大阪府等地域の歯科医院との連携を深めることを目的に平成23年4月から運営を開始した。年間紹介患者数は、約8,300名であり、連携への適格な情報管理が必要である。

○医療安全講習会、院内感染対策講習会等

医療安全、院内感染防止に関する取り組みは、昨年度に引き続き講習会が開催され、多数の教職員が参加した。

「医療安全のための研修」

「苦情対応技法のための研修」
 「基本原因分析法のための研修」
 「院内感染防止対策のための研修」
 「医薬品安全のための研修」
 「医療機器安全使用のための研修」
 「総合医局会講演会・東日本大震災歯科ボランティアに参加して」

○薬剤院外処方を導入

患者サービスの向上を図るべく、平成23年4月から実施された。

V. 両専門学校の将来像

1. 専門学校の大学・短大化に関する検討委員会への付託
2. 募集定員を減らすなど改善策を実施
3. 短大化の検討
4. 大学院修士課程へ接続

両専門学校の将来像については、大学・短大化に関する検討委員会に付託しており、大学を含めた総合的な歯科教育機関という枠組みの中で検討している。

歯科技工士専門学校の入学者は、平成22年24名、同23年19名と定員を大きく割っているため、平成23年度中に学則を変更（平成24年4月1日変更）し、平成24年度から募集定員を45名から30名に削減することとした。また、専門性を高めるため、教育課程の見直しを行った。すなわち、選択科目に選択コースとして、「セラミックコース」、「デンチャーコース」、「ベーシックコース」の3コースを設けた。平成24年度の入学者は15名であった。一方、歯科衛生士専門学校は、ここ3年間54名の入学者があり定員を充足している。優れた教育環境、教員人材を生かすべく周辺の学校訪問、HPのリニューアル、進学ネットへの掲載など学生を確保するための取り組みを進めた。

歴史と伝統のある医療系専門学校として、歯科技工士・歯科衛生士の国家試験合格率は、今年度も好成績を維持している。こうした実績を踏まえ、今後の改組転換に向けての方策を検討しつつある。

VI. 特別重点計画

1. 創立100周年記念事業の推進

- ①記念式典 平成23年（2011年）11月11日（金）
- ②本学発祥の地への記念碑設置
- ③記念事業募金
- ④天満橋学舎へ講義室建設（創立100周年記念館）
- ⑤出版物の刊行（大学100年史・大学院50年史）
- ⑥記念講演会 平成23年（2011年）11月12日（土）
- ⑦歯科医学の歴史的資料（史料）の収集

2. 第22回日本歯科医学会の主幹

1. 創立100周年記念事業の推進

○記念式典

平成23年11月11日、大阪国際会議場において教職員、学生、同窓生、来賓、招待者など1600名を超える出席者のもと盛大に開催された。また、同日、式典に先立ち記念慰霊祭、式典終了後にリーガロイヤルホテル大阪において祝宴が開催され、創立100周年記念式典は滞りなく終了した。

平成22年7月の第1回委員会から平成23年11月まで17回の委員会を開催し、記念式典、祝宴、慰霊祭の準備作業および記念ロゴマーク・マスコットキャラクターの選定作業と横断幕設置等の広報活動を行った。式典当日の準備作業として、海外および国内の招待者リスト化と招待状の発送・出欠の確認、タイムスケジュールの作成、記念品の選定、係員の配置、式次第の作成などを行った。また、同時に式典前日から行われる国際学術交流協定書の調印式および学術交流校との懇談会の準備も並行して進めた。

○本学発祥の地への記念碑設置

平成23年10月11日、大阪市福島区野田4丁目の野田緑道（公園）において、本学はじめ関係者43名の出席のもと、発祥の地記念碑除幕式が執り行われた。

平成22年7月の第1回委員会から平成23年8月まで5回の委員会を開催し、本学発祥の地の確定、記念碑の形状・内容および石材業者の選定、大阪市への許可申請、地元町会への説明と推薦依頼などの作業を行った。当地が大阪市の公有地であったため、大阪市への許可申請にあたり、地元町会から賛同の署名、福島区長の推薦を得て申請し、平成23年6月6日に大阪市長の設置許可が下りた。10月11日、当地において福島区長、前福島区長、野田4丁目町会長および町会の皆様にも出席願ひ、野田恵美須神社の神事により除幕式を行った。

○記念事業募金

「創立100周年記念館」建設のための募金を記念事業として行い、同窓生をはじめ教職員、父兄、専門学校卒業生、関連会社等に募金の依頼をした。募金期間終了後も募金が絶えず、募金件数は1800件を超え、募金金額は1億7千万円に達した。

平成22年7月の第1回委員会から平成23年11月まで7回の委員会を開催し、募金趣意書等の作成、依頼先の選定、芳名録、寄付者銘版、芳名録の広報誌等の掲載などについて審議し、作業を進めた。募金趣意書は同窓生、教職員、父兄、専門学校卒業生には郵送し、関係企業には郵送と委員が直接持参して寄付依頼をした。芳名録（永久保存版）の作成と創立100周年記念館内の寄付者銘板設置を残している。

○創立100周年記念館

平成23年5月に建設委員会を立ち上げ通算9回の委員会を開催し、建物の名称を「創立100周年記念館」とし、設計・監理会社を(株)日建設計、施工会社を西松建設(株)に決定した。これからの大学100年を担うシンボルとなる建物と位置づけ、既存の天満橋学舎附属病院本館の外観と調和しつつ、上町筋へ大学の新たな顔を創出するものである。この建物は、歯科医師国家試験を間近に控えた第5・6学年のための教育環境の改善に資するものである。

建物の概要は、鉄骨造地上4階建て、建築面積は792.94㎡となっており、完成は平成25年3月の予定である。

階数	床面積	用途
1	731.10㎡	エントランスホール、事務室、応接室
2	703.34㎡	小講義室、講師控室、ゼミ室
3	699.98㎡	中講義室、ゼミ室、講師控室
4	747.86㎡	大講義室（251席＋補助席27席）

○出版物の刊行（大学100年史・大学院50年史）

創立100周年の記念誌として、「大学100年史」「大学院50年史」等出版物の刊行を担当した。

平成22年3月の第1回委員会から平成24年3月まで25回の委員会を開催し、「大学100年史」「大学院50年史」「100周年記念の葉」とともに学生向けの自校史を作成

することとなった。執筆・編集作業に時間を要する「大学100年史」の完成目途を平成24年9月とし、現在も月1回のペースで編集委員会を開催している。記念式典用の出版物として「大阪歯科大学のあゆみ」の編集作業を進め、平成23年10月に完成し式典の記念品とした。

○記念講演会

平成23年11月12日、リーガロイヤルホテル大阪において開催され、教職員、同窓生、学生および専門学校生など約600名が出席した。学術交流協定校の6名の先生ならびに理化学研究所の西川伸一先生、建築家の安藤忠雄先生が講演した。

平成22年8月の第1回委員会から平成23年11月まで8回の委員会を開催し、講演内容と講演者の選定および講演会プログラム・ポスターの作成などについて検討した。講演内容については、①「世界の歯科大学における近未来戦略」の共通タイトルで学術交流協定校に講演依頼、②歯科界の将来・研究臨床の方向、③日本の将来（文化人による講演）の3つの主題を決定した。①については、コロンビア大学、シドニー大学、キングス・カレッジ・ロンドン、西安第四軍医大学、慶熙大学校歯科大学、台北医学大学の6大学から了解を得、②は理化学研究所の西川伸一先生、③は建築家の安藤忠雄先生に講演を依頼し承諾を得た。

○歯科医学の歴史的資料（史料）の収集

平成23年10月29日から11月30日まで楠葉学舎4号館において「歯科医学の歴史的資料展示室」を開館した。本学の歴史をパネルで紹介するとともに、同窓生などから収集した年代ものの歯科器具、診療台などを展示した。

平成22年8月の第1回委員会から平成23年10月まで16回の委員会を開催し、歴史的資料の収集・選定を行った。委員会では、これまで収集し牧野学舎に保管している資料に加えて同窓生などから新たに歴史的な資料を収集し、整理・調整のうえ一部を楠葉学舎4号館2階の史料室に展示することとした。同時に、本学の歴史を5つに時代区分してパネルにより説明文と写真で紹介することとした。平成23年10月28日、「歯科医学の歴史的資料展示室」の開所式を行った。

2. 第22回日本歯科医学会総会の主幹

大阪市での開催は、実に21年ぶりとなる今回の総会は、「お口の健康 全身元気—各世代の最新歯科医療—」をメインテーマに、平成24年11月9日（金）から11日（日）まで、インテックス大阪、リーガロイヤルホテル、グランキューブ大阪の3会場で開催される。

開会講演は、山中伸弥先生（京都大学iPS細胞研究所所長）が行うことになっている。また、期間中は、シンポジウム、歯科衛生士・歯科技工士セッション、国際セッション、公開フォーラム、テーブルクリニック、ポスターセッション、専門分科会、認定分科会によるセミナーなど、多彩な内容で開催すべく現在準備中である。



平成23年度 監事監査報告



平成23年度会計決算にあたり、平成24年5月14日（月）、15日（火）の2日間にわたり、楠葉学舎5号館3階大会議室において監事監査を実施した。

監査を始めるにあたり、川添理事長より本学の収支状況に鑑み、財務安定化につながる監査が要請された。監査には、川添理事長を始め下村常務理事、田中常務理事、伊達理事、藤野理事、亀井法人事務部長、中尾法人経理部長、牧谷大学事務部長が立ち会った。

平成23年度監査の実施要領は次のとおりである。

1. 監査日程

- 第1日目 平成24年5月14日（月） 13時00分～
- 第2日目 平成24年5月15日（火） 10時00分～

2. 会計年度

平成23年度 平成23年4月1日～平成24年3月31日

3. 監査の範囲

- (1) 一般会計に関する監査
 - 1) 平成23年度の決算状況（収支計算書・貸借対照表）
 - 2) 諸積立金の現状と運用
 - 3) 経理諸帳簿・諸証票の保管と整備状況
 - 4) 経理上経過勘定の状況
 - 5) 各課における予算執行状況
 - 6) その他
- (2) 業務内容に関する監査

- 1) 附属病院の経営改善の状況について
- 2) 施設、設備、構築物等の保全と契約状況について
- 3) 教職員の勤務状況（出退勤、出張、時間外勤務）について
- 4) 衛生士および技工士専門学校の現況と今後の改善について
- 5) 各業務の事務分担と処理状況について
- 6) 各業務の法令遵守状況について
- 7) 学内LANの現況その他
- 8) 報酬委託費等について

4. 監査の要領

- 1) 平成23年度予算執行状況
- 2) 平成23年度業務の概要
- 3) その他

5. 監査の概要および監事の意見

監事は、私立学校法第37条第3項及び学校法人大阪歯科大学寄附行為第13条第3項の定めに基づき、平成23年度における学校法人大阪歯科大学の財産及び業務執行状況の監査を行った。

(1) 一般会計に関する監査

1) 監査の方法および監査結果

監事は理事会及び評議員会に出席するほか、理事からその業務の執行状況を聴取し、重要な決裁書類等を閲覧し、主要な関係部署において業務及び財産の状況を調査した。また、監事は会計監査人である仰星監査法人と連携し、平成23年度の計算書類について報告及び説明を受け、財産目録、事業報告書、貸借対照表及び収支計算書に検討を加えた。

学校法人大阪歯科大学の業務又は財産に関し、不正の行為または法令もしくは寄附行為に違反する重大な事実は認められない。財産目録、貸借対照表及び収支計算書等は会計帳簿の記載と合致し、法人の収支及び財産の状況を適正に表示しているものと認める。事業報告書は主要な事業が記載されており、事業が適正に執行されているものと認める。

2) 各課における予算執行状況

決算報告書に基づき、平成23年度予算執行状況について各部署より報告を受けた。一部の部署において、予算執行率低下など予算編成上の問題が認められたが、

全体的には適正な事務処理により予算管理がなされていた。

今年度は、全般的に大きな新規事業がなく決算額は前年度よりかなり削減された。次年度以降においても財政規律を遵守した予算編成に基づく予算執行が望まれる。各課の予算管理状況については、予算執行率のデータに基づき評価し、前年度実績に基づく予算編成を要請した。また、報酬委託費について資料を提出させ、現状および管理状況について監査した。

(2) 業務内容に関する監査

- 1) 大学の財政状況に鑑み各課に業務内容を精査し、支出を膨らませない努力を要請した。また、各課における業務内容・業務量と人員配置、勤務状況、施設・設備の保全状況などの報告を受け、監査した。
- 2) 教職員の勤務状況について、部署により年間残業時間数に大きな格差があり、仕事量と適正な人員配置について検討を促した。例えば、総務課人事担当は近年、教員評価、臨床研修医などの仕事が追加され、残業が常態となっているため、関連部署との役割分担も必要と考えられる。
- 3) 報酬委託費は、平成23年度から現場部署で予算管理しており、報酬委託費に関する決算報告書の提出を求め、委託内容、人員数、委託費等について監査した。現場管理に移行したことで、現場の経費削減努力および予算委員会での査定により、報酬委託費は前年度より削減された。
- 4) 施設に関わる工事・修理等の決裁のルールおよびルートについて金額、内容等により決裁権限を整理し、明確にすることが必要である。
- 5) 私立歯科大学は、受験生の減少など厳しい状況が続いており、本学は推薦指定校制度を取り入れるなど努力しているが、入試倍率の低下による全体的な学力の低下が懸念される。第105回歯科医師国家試験において本学は低迷したが、その原因を検証することが必要である。学生の学力追跡調査を行い、現行の入試選抜制度の見直しも検討しなければならない。また、受験生をひきつけるオープンキャンパスの開催や効果的なホームページの活用など入試対策をさらに充実させていくことが必要である。
- 6) 附属病院は、本学の収支状況を考えると、その医

療収入は重要な事業収入として期待されている。監査では、収支状況、改善状況などの報告を受けた。医療収入は、院外処方に移行した関係で減収が予想されたが、前年度とほぼ同額の収入を維持した。教員評価によるインセンティブが機能したと考えられる。病院システムのサポート体制については特に問題はなく、安定稼働に向けて改善が進められている。患者目線に立った病院案内、ホームページの活用など明確なビジョンを持ち、その実効性を検証しながら更なる収支改善に努めてもらいたい。

- 7) 両専門学校については、定員の充足が大きな課題となっている。両校とも、積極的な広報宣伝活動や地道な学校訪問など努力をしているが、歯科技工士専門学校の入学者は昨年より4名減り15名であった。こうした状況をうけ、入学定員を30名に削減することとなったが、3つの専攻コースをつくりCADを導入するなど学生確保に努力している。一方、歯科衛生士専門学校は3年連続で定員を上回り54名の入学者があった。短大化構想については、日本歯科大学東京短期大学のように専攻科との組み合わせで4年間修学することにより、学位授与機構との連携で学位認定(口腔保健学)を受けることも可能となる。両専門学校については、入学定員の充足・維持に向けた努力が何よりも優先される。



平成23年度 決算報告



平成23年度決算は、平成24年5月24日に開催された法人理事会で承認され、同日に開催された第146回評議員会に報告されました。

平成23年度決算における「資金収支計算書」、「消費収支計算書」、「貸借対照表」の概要は次のとおりです。

ODU NEWS No.166

平成23年度資金収支計算書
(平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)
(単位：円)

収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	4,858,360,000	4,818,315,000	40,045,000
手数料収入	38,000,000	32,788,300	5,211,700
寄付金収入	227,000,000	144,720,740	82,279,260
補助金収入	626,086,000	618,643,019	7,442,981
資産運用収入	336,232,000	284,385,802	51,846,198
資産売却収入	0	0	0
事業収入	1,790,000,000	1,962,881,822	△ 172,881,822
雑収入	244,004,000	321,445,013	△ 77,441,013
前受金収入	964,250,000	979,810,000	△ 15,560,000
その他の収入	1,233,474,000	1,341,414,701	△ 107,940,701
資金収入調整勘定	△ 1,409,250,000	△ 1,406,352,694	△ 2,897,306
小 計	8,908,156,000	9,098,051,703	△ 189,895,703
前年度繰越支払資金	3,767,807,093	3,767,807,093	□
収入の部合計	12,675,963,093	12,865,858,796	△ 189,895,703

支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	4,618,694,000	4,607,552,649	11,141,351
教育研究経費支出	1,965,351,000	1,857,111,295	108,239,705
管理経費支出	638,696,856	609,754,845	28,942,011
施設関係支出	25,368,000	18,688,950	6,679,050
設備関係支出	198,952,897	206,873,963	△ 7,921,066
資産運用支出	1,247,908,000	1,178,040,922	69,867,078
その他の支出	439,600,000	551,607,312	△ 112,007,312
[予 備 費]	(24,966,753) 75,033,247		75,033,247
資金支出調整勘定	△ 380,000,000	△ 312,018,235	△ 67,981,765
小 計	8,829,604,000	8,717,611,701	111,992,299
次年度繰越支払資金	3,846,359,093	4,148,247,095	△ 301,888,002
支出の部合計	12,675,963,093	12,865,858,796	△ 189,895,703

(注)予備費使用内訳

管理経費支出	消耗品費支出	1,228,500
管理経費支出	公租公課支出	7,671,100
管理経費支出	雑費支出	2,846,256
施設関係支出	建物支出	4,473,000
設備関係支出	教育研究用機器備品支出	8,747,897
	合 計	24,966,753

平成23年度消費収支計算書 (平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)			
(単位：円)			
消費収入の部			
科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金	4,858,360,000	4,818,315,000	40,045,000
手数料	38,000,000	32,788,300	5,211,700
寄付金	237,000,000	153,214,390	83,785,610
補助金	626,086,000	618,643,019	7,442,981
資産運用収入	336,232,000	284,225,802	52,006,198
資産売却差額	0	0	0
事業収入	1,790,000,000	1,962,881,822	△ 172,881,822
雑収入	244,004,000	321,445,013	△ 77,441,013
帰属収入合計	8,129,682,000	8,191,513,346	△ 61,831,346
基本金組入額合計	△ 80,105,000	△ 269,621,536	189,516,536
消費収入の部合計	8,049,577,000	7,921,891,810	127,685,190
消費支出の部			
科目	予算	決算	差異
人件費	4,555,820,000	4,458,892,968	96,927,032
教育研究経費	2,990,018,000	2,889,745,257	100,272,743
管理経費	866,324,856	837,233,663	29,091,193
資産処分差額	0	45,814,975	△ 45,814,975
徴収不能引当金繰入額	0	982,500	△ 982,500
徴収不能額	0	307,385	△ 307,385
[予備費]	(11,745,856)		88,254,144
	88,254,144		
消費支出の部合計	8,500,417,000	8,232,976,748	267,440,252
当年度消費支出超過額	450,840,000	311,084,938	
前年度繰越消費支出超過額	19,669,384,281	19,669,384,281	
基本金取崩額	18,760,000	37,263,845	
翌年度繰越消費支出超過額	20,101,464,281	19,943,205,374	

(注) 予備費使用内訳

管理経費	消耗品費	1,228,500
管理経費	公租公課費	7,671,100
管理経費	雑費	2,846,256
合計		11,745,856

1. 平成23年度資金収支計算書

資金収支計算書は、当該年度の諸活動に対応する全ての収入および支出ならびに支払資金の収支の顛末を明らかにするものです。

資金収入は、学生生徒等納付金収入、補助金収入、事業収入などの法人に帰属する収入のほか、前受金収入なども含め、90億9805万円となりました。一方、資金支出は、教職員の人件費、教育研究活動および法人

の運営に必要な諸経費、施設、設備関係支出などの支出を含め、87億1761万円となりました。

この結果、収支差引3億8044万円の資金余剰となり、これを前年度繰越支払資金37億6780万円に加算した結果、次年度繰越支払資金は41億4824万円に増加しました。

2. 平成23年度消費収支計算書

消費収支計算書は、資産もしくは用益の消費額（消

費支出)とその補填に充当できる収入(消費収入)とを対比し、両者の均衡の有無を明らかにするものです。

帰属収入は、学生生徒等納付金、補助金、事業収入などの法人に帰属する負債とならない収入で、81億9151万円となりました。また、基本金組入額は2億6962万円となりましたので、消費支出に充当することのできる消費収入は79億2189万円となりました。一方、消費支出は、教職員の人件費、教育研究活動および法人の運営に必要な諸経費で、82億3297万円となりました。

この結果、平成23年度決算における消費収支は、3億1108万円の消費支出超過となりました。

これにより、翌年度繰越消費収支差額は、前年度繰越消費支出超過額が196億6938万円であり、基本金取崩しが3726万円発生したため、199億4320万円の消費支出超過額計上となりました。

3. 貸借対照表

貸借対照表は、会計年度末時点における財政状況(保有する資産と負債の状況)を表示するものです。

資産の部の合計額は、590億1492万円となり前年度末に比べ、3億7373万円減少しました。これは、流動資産が現金・預金を中心に2億9485万円増加する一方、固定資産が減価償却等により6億6858万円減少したことによるものです。

負債の部は、前年度末比3億3226万円減少して、65億612万円となりました。

翌年度繰越消費支出超過額は、消費収支計算書の項目で説明のとおり199億4320万円でしたので、基本金の部は前年度末比2億3235万円増加して724億5201万円となりました。

貸借対照表 (平成24年3月31日)			
(単位:円)			
資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	54,393,888,254	55,062,471,965	△ 668,583,711
有形固定資産	19,789,074,149	20,861,824,844	△ 1,072,750,695
その他の固定資産	34,604,814,105	34,200,647,121	404,166,984
流動資産	4,621,039,333	4,326,188,399	294,850,934
資産の部合計	59,014,927,587	59,388,660,364	△ 373,732,777
負債の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定負債	4,800,278,544	4,945,322,168	△ 145,043,624
流動負債	1,705,842,553	1,893,068,304	△ 187,225,751
負債の部合計	6,506,121,097	6,838,390,472	△ 332,269,375
基本金の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
第1号基本金	42,012,691,759	41,801,942,209	210,749,550
第3号基本金	29,767,320,105	29,745,711,964	21,608,141
第4号基本金	672,000,000	672,000,000	0
基本金の部合計	72,452,011,864	72,219,654,173	232,357,691
消費収支差額の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
翌年度繰越消費支出超過額	19,943,205,374	19,669,384,281	273,821,093
消費収支差額の部合計	△ 19,943,205,374	△ 19,669,384,281	△ 273,821,093
科 目	本年度末	前年度末	増 減
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	59,014,927,587	59,388,660,364	△ 373,732,777

平成24年度 解剖体慰霊祭

新緑の五月晴れの中、5月18日(金)午後2時より四天王寺五智光院において、ご遺族、黄菊会会員様、養護施設からの来賓、教職員、本学学生、附属歯科衛生士専門学校生合わせて600名を超える参列者の下、平成24年度解剖体慰霊祭が厳かに執り行われた。

開会前の喧騒が導師入堂を告げる半鐘の音により、瞬間に式場全体が荘厳な静寂に包まれ、その静寂な中、導師入堂に合わせて開式の言葉が述べられた後、解剖学講座諏訪文彦主任教授から祭文が奉読された。四天王寺御坊の唱える読経の中、尊いご遺体を捧げられた御霊のご冥福を心より祈念し、参列者一同が焼香を行った。

続いて大阪歯科大学を代表し川添堯彬理事長・学長より、歯科医学の教育発展のため篤志を持ってご献体いただいた故人、ご遺族ならびに本学献体団体であります黄菊会会員の方々に深甚なる謝辞を表された。文部科学大臣感謝状授与式を執り行い、川添理事長・学長より献体者(故)片岡多美子殿他10名のご遺族に対して感謝状を感謝の言葉と共に手渡された。

最後に学生を代表し第3学年の三上優さんが解剖実習を通じて感じた献体者への感謝の言葉を霊前に寄せると共に、参列した学生一同が立礼をして感謝の気持ちを表した。

慰霊祭終了後、ご遺族は四天王寺境内の元三大師堂内に建立された本学慰霊碑へ移動し、回向を行った。また時を同じくして、四天王寺客殿において黄菊会第40回総会が開催され、議事どおり終了した。

歯の衛生週間「カバの歯を検診」

厚生労働省などが定めた歯の衛生週間(6/4~6/10)が始まり、その初日の6月4日、白浜町のアドベンチャーワールド内にあるカバが飼育されている広場では、地元の保育園の子どもたちや観光客が見守る中、大阪歯科大学附属病院の菊池優子医師が、大きく口を開いたカバの歯を検診。園児たちにカバの歯磨きを体験させた後、紙芝居を見せながら、虫歯予防と歯の大切さを説明、最後に正しい歯の磨き方を教えました。



枚方6大学学生部懇談会開催

6月15日、枚方6大学学生部懇談会が本学で開催された。出席したのは、枚方市に大学をもつ大阪工業大学、大阪国際大学、関西医科大学、関西外国語大学、摂南大学と本学である。川添理事長・学長の挨拶のあと、今日の大学生がかかえる様々な問題点、大学の対応などについて活発に意見交換が行われた。



平成24年度 学内研究助成金

平成24年度大阪歯科大学学術研究奨励助成金（大学院生）が採択されました。13件で各30万円、合計390万円が助成されました。

平成24年度 大阪歯科大学学術研究奨励助成金(大学院生)採択一覧

課題番号	氏名	専攻	学年	研究課題	助成額(円)
12-01	黄地 智子	歯科保存学	3	二酸化チタン光触媒漂白剤がコンポジットレジン [®] の歯質接着性に及ぼす影響	300,000
12-02	冨正 玲子	歯科保存学	3	新規覆髄材が象牙芽細胞の石灰化誘導へ与える影響について	300,000
12-03	松田 有之	歯科保存学	3	新規高出力LED光照射器に関する研究 －照射距離が接着強さに与える影響－	300,000
12-04	高橋 幸達	歯周病学	3	EMD由来合成ペプチドの歯周組織構成細胞の増殖、接着、遊走に及ぼす影響	300,000
12-05	幡中 寿之	高齢者歯科学	4	咀嚼嚥下のStage II transportにおける鼻呼吸動態の解析	300,000
12-06	込保 大樹	有歯補綴咬合学	4	最大随意噛みしめ前後による咬合接触検査の影響	300,000
12-07	田中 睦都	有歯補綴咬合学	4	高齢者の転倒予防に咬合支持の回復が与える影響	300,000
12-08	渡邊 信也	口腔外科学第一	4	ゾレドロネート投与GKラットモデルにおける創傷治癒	300,000
12-09	回野 多香子	口腔外科学第一	3	緑茶カテキンの4NQO誘発ラット舌癌に対する修飾効果の解析	300,000
12-10	川崎 俊也	歯科矯正学	4	歯牙移動の骨吸収におけるサイトカインの影響	300,000
12-11	込戸 美香	歯科矯正学	4	実験的歯の移動における一酸化窒素(NO)の影響	300,000
12-12	榎 寛	歯科矯正学	3	RAW264.7細胞の破骨細胞分化におけるチロシンキナーゼFAKについて	300,000
12-13	越沼(岡村) 静	歯科麻酔学	3	心筋虚血再灌流障害におけるネクロプトーチシスの関与	300,000
				計 13件	3,900,000

人 事

大学役職者

副学長 □ 諏訪 文彦
 総務部長 □ 小正 裕
 教務部長 □ 田中 昭男
 学生部長 □ 川合進二郎
 図書館長 □ 小谷順一郎
 附属病院病院長 □ 覚道 健治
 大学院研究科科长 □ 西川 泰央
 中央歯学研究所所長 □ 武田 昭二
 教育情報センター所長 □ 佐ノ木幸夫
 国際交流部長 □ 山本 一世
 附属病院副病院長 □ 森田 章介
 附属病院副病院長 □ 林 宏行
 附属病院副病院長 □ 田中 昌博
 以上 H. 24. 4. 1付

教員採用

歯科保存学講座 助教 保尾 謙三
 歯科保存学講座 助教 宮地 秀彦
 歯周病学講座 助教 木村 大輔
 高齢者歯科学講座 助教 渋谷 友美
 有歯補綴咬合学講座 助教 向井 憲夫
 欠損歯列補綴咬合学講座 助教 小正 聡
 欠損歯列補綴咬合学講座 助教 坂井 大吾
 口腔外科学第一講座 助教 松島 由紀
 口腔外科学第一講座 助教 辻 要
 歯科矯正学講座 助教 坂井 加奈
 歯科矯正学講座 助教 農端 健輔
 小児歯科学講座 助教 篠永 ゆかり
 歯科麻酔学講座 助教 岸本 直隆
 中央歯学研究所 助教 本田 義知
 以上 H. 24. 4. 1付

昇 任

物理学教室 主任教授 辻林 徹
 H. 24. 5. 1付
 歯科保存学講座 講師 谷本 啓彰
 歯科麻酔学講座 講師 加藤 裕彦
 以上 H. 24. 4. 1付

再任用

化学教室 助教 牧田 佳真
 生理学講座 助教 藤本 哲也

生化学講座 助教 堂前 英資
 歯科保存学講座 助教 鈴木康一郎
 歯科保存学講座 助教 西田 尚敬
 口腔治療学講座 助教 辻 則正
 歯周病学講座 助教 吉川 直子
 歯周病学講座 助教 河野 智生
 歯科矯正学講座 助教 永木恵美子
 歯科放射線学講座 助教 蒲生 祥子
 以上 H. 24. 4. 1付

大学院教員任用

大学院教授
 諏訪 文彦, 岩井 康智
 西川 泰央, 池尾 隆
 田中 昭男, 福島 久典
 大浦 清, 武田 昭二
 神原 正樹, 山本 一世
 林 宏行, 梅田 誠
 小正 裕, 田中 昌博
 岡崎 定司, 森田 章介
 覚道 健治, 松本 尚之
 清水谷公成, 有田 憲司
 小谷順一郎

大学院准教授

竹村 明道, 隈部 俊二
 内橋 賢二, 鎌田 愛子
 西川 哲成, 山中 武志
 篠原 光子, 今井 弘一
 三宅 達郎, 吉川 一志
 吉田 匡宏, 高橋 一也
 西崎 宏, 井関 富雄
 中嶋 正博, 古跡 孝和
 嘉藤 幹夫, 佐久間 泰司
 宮前 雅見, 藤田 淳一
 檜 則章

大学院講師

上村 守, 中塚美智子
 上田 甲寅, 井上 博
 合田 征司, 和唐 雅博
 富永 和也, 山根 一芳
 野崎 中成, 橋本 典也
 岩田 有弘, 好川 正孝
 田口洋一郎, 柿本 和俊
 小野 圭昭, 楠本 哲次
 田中 順子, 吉峰 茂樹
 吉田 博昭, 大西 祐一
 西浦 亜紀, 四井 資隆
 大東 希好, 原田 京子

ODU NEWS No.166

	竹安 正治, 百田 義弘 加藤 裕彦, 澤井 宏文		病院庶務課庶務担当 主任 武田 茂 専門学校事務室 主任 中辻ときみ 附属病院 臨床検査技師主任 斉藤亜由美 附属病院 歯科技工士主任 東 宗秀 以上 H. 24. 4. 1付
大学院助教	戸田 伊紀, 藤本 哲也 諏訪部 武, 吉川 美弘 真下 千穂, 南部 隆之 岡田 正弘, 川崎 弘二 土居 貴士, 西田 尚敬 竹内 撰, 至田 宗泰 辻 則正, 緒方智壽子 河野 智生, 川本 章代 佐藤 正樹, 松本 和浩 山田 耕治, 窪 寛仁 蠅庭 秀也, 居波 薫 蒲生 祥子, 秋山 広徳 長野 豊 以上 H. 24. 4. 1付		所属異動 法人事務局 法人事務部長 亀井 崇 施設課 一般技術課長 田中 修 医事課 主任 政次 弥生 施設課 主任 赤瀬 裕子 教育情報センター事務室 主任 岩本 匡生 大学庶務課 主任 下田 亮介 教務学生課 事務職員 松浦しのぶ 病院庶務課庶務担当 事務職員 細川由美子 総務課総務担当 事務職員 加奥 奏哉 大学院課 事務職員 東尾 麻由 經理課 事務職員 松本 大樹 以上 H. 24. 4. 1付
専門学校教員採用 歯科衛生士専門学校	助手 寺島 雅子 H. 24. 4. 1付		兼 務 大学庶務課 課長 牧谷 弘幸 大学院課 課長 牧谷 弘幸 中央歯学研究所事務室 室長 牧谷 弘幸 病院庶務課卒後研修担当 課長 前野 隆 以上 H. 24. 4. 1付
職員採用 附属病院 附属病院 附属病院 附属病院	看護師 小川 千鶴 歯科衛生士 香川紗理子 歯科衛生士 伊谷 美咲 以上 H. 24. 4. 1付 看護師 田口 裕理 H. 24. 6. 1付		課長解任 教務学生課 主任 西本 敏彦 H. 24. 5. 24付
再雇用 総務課総務担当 医事課 同窓会事務局 附属病院 附属病院 附属病院 附属病院	事務職員 仲宗根幸男 事務職員 西村 謙 事務職員 池田 良則 放射線技師 櫻井 邦昭 歯科技工士 佐藤 繁男 歯科技工士 加地 公夫 歯科技工士 永井 利明 以上 H. 24. 4. 1付		依願退職 附属病院 看護師 小川 千鶴 附属病院 看護師 平松 育子 以上 H. 24. 4. 30付 内科学講座 講師 長野 豊 附属病院 看護師 今井 祥子 以上 H. 24. 6. 30付
昇 進 歯科衛生士専門学校 大学事務部 附属病院 附属病院 総務課人事担当 図書課	教務主任 頭山 高子 大学事務部長 牧谷 弘幸 放射線技師長 笹垣三千宏 歯科技工士長 西村 元彦 主任 山本 晃也 主任 東 介伊子		委 嘱 客員教授 山下 敦, 末瀬 一彦 二階 宏昌, 北條 博一 螺良 愛郎, 有田清三郎 Visiting Professor Chitta Ranjan Choudhury 金 岩, 朴 榮 國 申 濟元, 金 麗甲

嘱託 臨床心理士 飯塚 建行, Mark McGurk
 以上 H. 24. 4. 1付
 嘱託 医師 畑 聡美, 辻野 達也
 螺良 愛郎, 長央由里子
 松本 考司, 梅垣 裕
 奥田 隆彦, 西村 哲哉
 永井 由巳, 竹田 浩子
 津野 隆哉, 木田 博
 奥田 恵子, 西賀 雅隆
 塩見真由美
 以上 H. 24. 4. 1付

医療嘱託
 口腔インプラント科 金平裕久美
 保険委員会担当 牧野 利彦
 臨床研修管理運営委員会担当 赤根 賢治
 医事相談担当 津田 高司
 以上 H. 24. 4. 1付

臨床教授 江藤 隆徳, 青野 充
 以上 H. 24. 4. 1付

臨床准教授 森川 充康, 徳永 徹
 以上 H. 24. 4. 1付

臨床講師 江原 雄二, 岡 卓爾, 岡 正樹
 熊崎 眞義, 熊崎 護, 玉置 敏夫
 丸岡 圭一, 諸井 英徳, 諸井 香利
 有山喜七郎, 仲西 健樹, 山下 順司
 田口 洋見, 田口 千洋, 近森 信人
 大塚 俊裕, 室井 誠, 安田 康治
 小川 清二, 西出 昌司, 河村 達也
 太田 之博, 平山 富興, 小室 甲
 呉本 時男, 藤田 晴久, 上り口寛武
 上り口晃成, 佐原 正恭, 金尾 好章
 宇佐美敦司, 藤原 正彦, 澤田 俊雪
 田邊 順一, 小室 智, 岡林 眞史
 小室 暁, 藤田 勝弘, 小室 渡
 山崎 一郎, 山崎 行庸, 森川 勝
 小池 宏忠, 仁木 繁憲, 三上 淑子
 三上 豊, 林 正純, 小室 美樹
 小室 崇, 領内 茂, 立木 靖種
 海老 徳, 糸田 昌隆, 貴島真佐子
 横田 允宏, 川野 雅也, 山本 晴彦
 八竹 雅美, 大塚 健司, 伊東 武史
 浅井 計征, 松村 貴史, 鈴江 義彦
 河津 正文, 上田 祐嗣, 上田 佳世

浅井 勇吾, 辰野 隆, 吉見 哲朗
 三谷 徹, 三宅 勝俊, 六本 裕嗣
 岡本 吉宏, 九鬼佐和子, 九鬼 裕之
 以上 H. 24. 4. 1付

病院医員
 保存修復科 長谷川佳菜, 田口万友美
 歯内治療科 高橋 郁, 中川 萌
 田中 春菜, 隠岐 知達
 吉村 真愛
 歯周治療科 長田 大翼, 川口由貴子
 平沼 章寛, 安井菜津希
 太原 秀夫, 菱川 泰夫
 木村麻紀子, 大郷 友規
 辻本 香織, 藤井 佑果
 補綴咬合治療科 (有歯) 上田 梨恵, 藤木 傑
 中島 俊輝, 藤野 寛暁
 藤林 学, 田中 雅章
 補綴咬合治療科 (欠損) 安藤 仁美, 寺田 知里
 中島佑佳子, 本田 美祐
 三浦 寛規, 森上 沙希
 口腔外科第1科 内田 卓弥, 林 輝嘉
 松尾 悠里, 坂田 岳一
 田中 洋充, 松田彩起子
 口腔外科第2科 宇垣 吉秀, 永谷 容子
 松本 章禎, 伊達岡 聖
 砂田 典子, 森 悠衣
 矯正歯科 氏井 庸介, 下間 美沙
 角倉紗恵子, 園田 弓
 小児歯科・障害者歯科 樽井 紀昌, 稲田 真弓
 吉田 訓子
 歯科麻酔科 豊永 達宣, 松下 容子
 木下 郁恵
 総合診療・診断科 小山 領介, 山本 具美
 中井 智加
 臨床研修教育科 長谷川真也, 日丸 全人
 安田 麻美
 口腔インプラント科 島原 淳, 永久 景那
 橋本斉以子, 稗田 彩人
 以上 H. 24. 4. 1付

ポストドクトラルフェロー
 口腔治療学 柿木 栄幸
 口腔外科学第二 赤峯 勇哲
 以上 H. 24. 4. 1付

ODU NEWS No.166

総務部委員会委員長 小正 裕
 総務部委員会委員 諏訪 文彦, 田中 昭男
 大浦 清, 覚道 健治
 西川 泰央, 武田 昭二
 亀井 崇, 牧谷 弘幸
 松村 誠一, 高須 聡
 吉村 里美
 以上 H. 24. 4. 1付

廃棄物処理委員会委員長 小正 裕
 廃棄物処理委員会委員 覚道 健治, 池尾 隆
 西川 泰央, 亀井 崇
 牧谷 弘幸, 松村 誠一
 田中 修
 以上 H. 24. 4. 1付

教務部委員会委員長 田中 昭男
 教務部委員会委員 藤原 眞一, 武田 昭二
 西川 泰央, 有田 憲司
 山本 一世, 林 宏行
 梅田 誠, 王 宝禮
 有田清三郎
 以上 H. 24. 4. 1付

図書館運営委員会委員長 小谷順一郎
 図書館運営委員会委員 田中 昌博, 清水谷公成
 池尾 隆, 岩井 康智
 樫 則章
 以上 H. 24. 4. 1付

図書資料選択委員会委員長 小谷順一郎
 図書資料選択委員会委員 竹村 明道, 中塚美智子
 藤本 哲也, 田村 功
 益野 一哉, 円山 由郷
 大谷 政博, 秋山 真理
 土居 貴士, 鈴木康一郎
 辻 則正, 木村 大輔
 渋谷 友美, 藤井 孝政
 吉峰 茂樹, 松島 由紀
 後藤 基宏, 居波 薫
 板垣 恵輔, 篠永ゆかり
 安東佳代子, 宮前 雅見
 久保 伸夫, 米谷 裕之
 菊池 優子, 新井 是宣
 岸本 直子, 一宮 正義
 津田 進, 岡村 英幸
 以上 H. 24. 4. 1付

健康管理委員会委員長 覚道 健治
 健康管理委員会委員 川合進二郎, 神原 正樹
 福島 久典, 清水谷公成
 林 宏行, 大久保 直
 畑 聡美, 亀井 崇
 牧谷 弘幸, 前野 隆
 高須 聡, 松村 誠一
 以上 H. 24. 4. 1付

学生部委員会委員長 川合進二郎
 学生部委員会委員 岩井 康智, 小谷順一郎
 田中 昌博, 松本 尚之
 樫 則章
 以上 H. 24. 4. 1付

学内食堂管理運営委員会委員長 川合進二郎
 学内食堂管理運営委員会委員 覚道 健治, 藤原 眞一
 松本 尚之, 山中 武志
 三宅 達郎, 大久保 直
 亀井 崇, 牧谷 弘幸
 松村 誠一, 東 真一郎
 以上 H. 24. 4. 1付

教育情報センター管理運営委員会委員長 佐ノ木幸夫
 教育情報センター管理運営委員会委員 清水谷公成, 藤原 眞一
 田中 昌博, 戸田 伊紀
 今井 弘一, 富永 和也
 南部 隆之, 川崎 弘二
 吉川 一志, 吉田 匡宏
 堀井 活子, 松村 誠一
 東 真一郎, 高橋 和代
 三木 慶一
 以上 H. 24. 4. 1付
 教育情報センター管理運営委員会委員 辻林 徹
 H. 24. 5. 1付

国際交流部委員会委員長 山本 一世
 国際交流部委員会委員 藤原 眞一, 岡崎 定司
 松本 尚之, 有田 憲司
 方 一如, 藤田 淳一
 以上 H. 24. 4. 1付

学術研究奨励助成金交付審査委員会兼
 共同研究助成審査委員会委員長 田中 昭男

学術研究奨励助成金交付審査委員会兼
共同研究助成審査委員会委員

西川 泰央, 武田 昭二
田中 昌博, 梅田 誠
有田 憲司
以上 H. 24. 4. 1付

カリキュラム委員会委員長
カリキュラム委員会委員

諏訪 文彦
覚道 健治, 池尾 隆
西川 泰央, 山本 一世
武田 昭二, 岡崎 定司
田中 昌博, 藤原 眞一
梅田 誠, 有田 憲司
以上 H. 24. 4. 1付

共用歯学C B T委員会委員長
共用歯学C B T委員会委員

西川 泰央
榎 則章, 辻林 徹
藤原 眞一, 檜枝 洋記
戸田 伊紀, 隈部 俊二
井上 博, 鎌田 愛子
富永 和也, 山中 武志
篠原 光子, 今井 弘一
三宅 達郎, 吉川 一志
至田 宗泰, 河野 智生
小野 圭昭, 楠本 哲次
吉峰 茂樹, 吉田 博昭
大西 祐一, 永田 雄己
竹安 正治, 板垣 恵輔
加藤 裕彦, 大久保 直
辰巳 浩隆, 菊池 優子
新井 是宣, 王 宝禮
以上 H. 24. 4. 1付

共用歯学O S C E実行委員会委員長
共用歯学O S C E実行委員会委員

山本 一世
西川 哲成, 合田 征司
吉川 一志, 馬場 忠彦
緒方智壽子, 高橋 一也
楠本 哲次, 西崎 宏
井関 富雄, 中嶋 正博
大西 祐一, 永木恵美子
古跡 孝和, 園本 美恵
百田 義弘, 米谷 裕之
前田 照太
以上 H. 24. 4. 1付

ブラッシュアップ委員会委員長
ブラッシュアップ委員会委員

松本 尚之
戸田 伊紀, 上田 甲寅
内橋 賢二, 田村 功
富永 和也, 山中 武志
篠原 光子, 今井 弘一
三宅 達郎, 吉川 一志
馬場 忠彦, 高津 兆雄
柿本 和俊, 佐藤 正樹
前田 照太, 松本 和浩
窪 寛仁, 永田 雄己
板垣 恵輔, 竹安 正治
加藤 裕彦, 大久保 直
榎 則章, 辻林 徹
牧田 佳真, 岡村 英幸
以上 H. 24. 4. 1付

F D委員会委員長
F D委員会委員

森田 章介
池尾 隆, 西川 泰央
小谷順一郎, 山本 一世
松本 尚之, 藤原 眞一
田中 昌博, 王 宝禮
以上 H. 24. 4. 1付

公開講座委員会委員長
公開講座委員会委員

清水谷公成
西川 泰央, 武田 昭二
岡崎 定司, 田中 昌博
藤原 眞一, 山中 武志
三宅 達郎
以上 H. 24. 4. 1付

医の倫理委員会委員長
医の倫理委員会委員

覚道 健治
西川 泰央, 武田 昭二
諏訪 文彦, 川合進二郎
松本 尚之, 榎 則章
大久保 直
以上 H. 24. 4. 1付

組換えDNA実験安全委員会委員長
組換えDNA実験安全委員会委員

川合進二郎
武田 昭二, 榎 則章
山中 武志, 大久保 直
牧谷 弘幸
以上 H. 24. 4. 1付

動物実験委員会委員長
動物実験委員会委員

池尾 隆
武田 昭二, 戸田 伊紀

松本 尚之, 隈部 俊二
 岡崎 定司, 檜 則章
 檜枝 洋記, 喜多 正和
 濱田 佑二
 以上 H. 24. 4. 1付

バイオセーフティー委員会委員長 梅田 誠
 バイオセーフティー委員会委員
 武田 昭二, 戸田 伊紀
 池尾 隆, 山中 武志
 檜枝 洋記
 以上 H. 24. 4. 1付

セクシュアル・ハラスメント防止委員会委員長 川添 堯彬
 セクシュアル・ハラスメント防止委員会委員
 小正 裕, 覚道 健治
 川合進二郎, 牧谷 弘幸
 高須 聡, 西堤 京子
 以上 H. 24. 4. 1付

サイバーキャンパス審議委員会委員長 佐ノ木幸夫
 サイバーキャンパス審議委員会委員
 小正 裕, 小谷順一郎
 林 宏行, 西川 泰央
 山本 一世, 牧谷 弘幸
 前野 隆, 安藤 孝幸
 松村 誠一, 高橋 和代
 三木 慶一
 以上 H. 24. 4. 1付

ホームページ委員会委員長 佐ノ木幸夫
 ホームページ委員会委員
 小正 裕, 小谷順一郎
 林 宏行, 西川 泰央
 山本 一世, 牧谷 弘幸
 前野 隆, 安藤 孝幸
 松村 誠一, 高橋 和代
 三木 慶一
 以上 H. 24. 4. 1付

知的財産委員会委員長 覚道 健治
 知的財産委員会委員
 田中 昭男, 諏訪 文彦
 小正 裕, 牧谷 弘幸
 以上 H. 24. 4. 1付

教員評価委員会委員長 川添 堯彬
 教員評価委員会委員 諏訪 文彦, 小正 裕

田中 昭男, 西川 泰央
 覚道 健治, 大浦 清
 以上 H. 24. 4. 1付

大学院委員会委員長 西川 泰央
 大学院委員会委員
 田中 昭男, 諏訪 文彦
 森田 章介, 小谷順一郎
 岡崎 定司, 武田 昭二
 梅田 誠
 以上 H. 24. 4. 1付

中央歯学研究所委員会委員長 武田 昭二
 中央歯学研究所委員会委員
 池尾 隆, 岩井 康智
 有田 憲司, 戸田 伊紀
 内橋 賢二, 野崎 中成
 山中 武志, 橋本 典也
 本田 義知, 牧谷 弘幸
 村上よし子, 堀 英明
 以上 H. 24. 4. 1付

ネットワーク小委員会委員長 藤原 眞一
 ネットワーク小委員会委員
 辻林 徹, 今井 弘一
 南部 隆之, 四井 資隆
 居波 薫, 竹内 摂
 三木 慶一, 岩本 匡生
 出水 浩一
 以上 H. 24. 4. 1付

治験委員会外部委員 植木 哲
 H. 24. 4. 1付

臨床研修管理運営委員会外部委員
 森川 充康, 徳永 徹
 以上 H. 24. 4. 1付

財務企画委員会委員長 川添 堯彬
 財務企画委員会委員
 下村錢三郎, 田中 昭男
 三谷 卓, 藤野 明
 諏訪 文彦, 覚道 健治
 伊達 洋彦, 小正 裕
 末瀬 一彦, 亀井 崇
 中尾 昌彦, 牧谷 弘幸
 松村 誠一
 以上 H. 24. 4. 1付

財務企画委員会病院の運営に関する事項部会部会長 覚道 健治

財務企画委員会病院の運営に関する事項部会部会員

下村錢三郎, 三谷 卓
藤野 明, 伊達 洋彦
森田 章介, 林 宏行
田中 昌博, 中尾 昌彦
前野 隆, 森田 恭生
今道 裕之, 東 真一郎
以上 H. 24. 4. 1付

財務企画委員会牧野学舎将来計画作業部会部会長

下村錢三郎

財務企画委員会牧野学舎将来計画作業部会部会員

田中 昭男, 諏訪 文彦
覚道 健治, 小正 裕
末瀬 一彦, 長家 秀博
亀井 崇, 中尾 昌彦
松村 誠一
以上 H. 24. 4. 1付

財務企画委員会給与部会部会長

三谷 卓

財務企画委員会給与部会部会員

小正 裕, 亀井 崇
中尾 昌彦, 牧谷 弘幸
松村 誠一, 高須 聡
以上 H. 24. 4. 1付

財務企画委員会経営部会部会長

下村錢三郎

財務企画委員会経営部会部会員

田中 昭男, 三谷 卓
岡 邦恭, 橋本 猛伸
諏訪 文彦, 覚道 健治
伊達 洋彦, 末瀬 一彦
亀井 崇, 中尾 昌彦
牧谷 弘幸, 松村 誠一
以上 H. 24. 4. 1付

退職資金管理運営委員会委員長

三谷 卓

退職資金管理運営委員会委員

下村錢三郎, 田中 昭男
覚道 健治, 小正 裕
亀井 崇, 牧谷 弘幸
以上 H. 24. 4. 1付

業者登録選考委員会委員長

下村錢三郎

業者登録選考委員会委員

田中 昭男, 三谷 卓
藤野 明, 伊達 洋彦
末瀬 一彦, 亀井 崇

中尾 昌彦, 牧谷 弘幸
前野 隆, 松村 誠一
田中 修
以上 H. 24. 4. 1付

学術研究奨励基金管理運営委員会委員長 下村錢三郎
学術研究奨励基金管理運営委員会委員

田中 昭男, 諏訪 文彦
藤野 明
以上 H. 24. 4. 1付

環境管理委員会委員長

覚道 健治

環境管理委員会委員

藤野 明, 川合進二郎
小谷順一郎, 末瀬 一彦
亀井 崇, 牧谷 弘幸
前野 隆, 松村 誠一
以上 H. 24. 4. 1付

枚方資料センター管理運営委員会委員長

覚道 健治

枚方資料センター管理運営委員会委員

下村錢三郎, 藤野 明
川合進二郎, 末瀬 一彦
亀井 崇, 牧谷 弘幸
前野 隆, 松村 誠一
以上 H. 24. 4. 1付

予算委員会委員長

下村錢三郎

予算委員会委員

川添 堯彬, 田中 昭男
諏訪 文彦, 覚道 健治
藤野 明, 伊達 洋彦
小正 裕, 西川 泰央
川合進二郎, 亀井 崇
中尾 昌彦, 牧谷 弘幸
前野 隆
以上 H. 24. 4. 1付

人事委員会委員長

三谷 卓

人事委員会委員

下村錢三郎, 田中 昭男
諏訪 文彦, 覚道 健治
藤野 明, 伊達 洋彦
小正 裕, 末瀬 一彦
亀井 崇, 中尾 昌彦
牧谷 弘幸, 前野 隆
高須 聡
以上 H. 24. 4. 1付

自己点検運営委員会委員長 川添 堯彬
 自己点検運営委員会委員 田中 昭男, 覚道 健治
 西川 泰央, 小谷順一郎
 川合進二郎, 末瀬 一彦
 亀井 崇, 牧谷 弘幸
 前野 隆
 以上 H. 24. 4. 1付

自己点検実施委員会委員長 川添 堯彬
 自己点検実施委員会 法人部門委員
 田中 昭男, 諏訪 文彦
 亀井 崇, 中尾 昌彦
 松村 誠一
 以上 H. 24. 4. 1付

自己点検実施委員会 教育・研究部門委員
 田中 昭男, 諏訪 文彦
 西川 泰央, 武田 昭二
 牧谷 弘幸, 松村 誠一
 以上 H. 24. 4. 1付

自己点検実施委員会 病院部門委員
 覚道 健治, 森田 章介
 林 宏行, 田中 昌博
 東 真一郎
 以上 H. 24. 4. 1付

自己点検実施委員会 事務部門委員
 牧谷 弘幸, 安藤 孝幸
 高須 聡
 以上 H. 24. 4. 1付

自己点検実施委員会 編集委員
 田中 昭男, 諏訪 文彦
 西川 泰央, 牧谷 弘幸
 安藤 孝幸, 松村 誠一
 以上 H. 24. 4. 1付

ODUウェルネス・ホール管理運営委員会委員長
 小正 裕

ODUウェルネス・ホール管理運営委員会委員
 覚道 健治, 佐ノ木幸夫
 西川 泰央, 川合進二郎
 松本 尚之, 末瀬 一彦
 長家 秀博, 大久保 直
 亀井 崇, 中尾 昌彦
 牧谷 弘幸, 前野 隆

高須 聡, 東 真一郎
 松村 誠一
 以上 H. 24. 4. 1付

広報委員会委員長 川添 堯彬
 広報委員会委員 安藤 孝幸, 松村 誠一
 以上 H. 24. 4. 1付

人権啓発推進委員会委員長 川添 堯彬
 人権啓発推進委員会委員 下村錢三郎, 田中 昭男
 三谷 卓, 藤野 明
 覚道 健治, 小正 裕
 西川 泰央, 川合進二郎
 樫 則章, 篠原 光子
 辻 一起子, 李 嘉永
 亀井 崇, 牧谷 弘幸
 前野 隆, 高須 聡
 西堤 京子, 東 真一郎
 松村 誠一, 西本 敏彦
 野中登貴男
 以上 H. 24. 4. 1付

個人情報保護委員会委員長 川添 堯彬
 個人情報保護委員会委員 田中 昭男, 覚道 健治
 佐ノ木幸夫, 西川 泰央
 小正 裕, 川合進二郎
 末瀬 一彦, 樫 則章
 亀井 崇, 牧谷 弘幸
 前野 隆, 三木 慶一
 以上 H. 24. 4. 1付

個人情報保護委員会大学部門委員会委員長 諏訪 文彦
 個人情報保護委員会大学部門委員会委員
 田中 昭男, 佐ノ木幸夫
 小正 裕, 川合進二郎
 末瀬 一彦, 樫 則章
 牧谷 弘幸, 三木 慶一
 松村 誠一
 以上 H. 24. 4. 1付

個人情報保護委員会病院部門委員会委員長 覚道 健治
 個人情報保護委員会病院部門委員会委員
 森田 章介, 林 宏行
 田中 昌博, 嘉藤 幹夫
 佐久間泰司, 前野 隆
 森田 恭生, 今道 裕之
 東 真一郎

以上 H. 24. 4. 1付
 個人情報保護委員会事務部門委員会委員長 牧谷 弘幸
 個人情報保護委員会事務部門委員会委員
 亀井 崇, 中尾 昌彦
 前野 隆, 三木 慶一
 松村 誠一, 高須 聡
 東 真一郎
 以上 H. 24. 4. 1付

大阪歯科大学附属病院財務改善検討委員会委員長
 下村錢三郎
 大阪歯科大学附属病院財務改善検討委員会委員
 田中 昭男, 三谷 卓
 覚道 健治, 藤野 明
 伊達 洋彦, 末瀬 一彦
 亀井 崇, 中尾 昌彦
 牧谷 弘幸, 前野 隆
 以上 H. 24. 4. 1付

資産運用検討委員会委員長 伊達 洋彦
 資産運用検討委員会委員 下村錢三郎, 田中 昭男
 三谷 卓, 覚道 健治
 藤野 明, 亀井 崇
 中尾 昌彦, 牧谷 弘幸
 稲留 誠
 以上 H. 24. 4. 1付

学校法人大阪歯科大学利益相反検討委員会委員長
 覚道 健治
 学校法人大阪歯科大学利益相反検討委員会委員
 田中 昭男, 小正 裕
 樗 則章, 牧谷 弘幸
 以上 H. 24. 4. 1付

専門学校の大学・短大化に関する検討委員会委員
 松原 正治, 頭山 高子
 牧谷 弘幸, 西堤 京子
 以上 H. 24. 4. 1付

創立100周年記念館建設委員会事務局(事務担当)
 牧谷 弘幸
 H. 24. 4. 1付

附属病院経営改善委員会委員長 川添 堯彬
 附属病院経営改善委員会委員
 下村錢三郎, 覚道 健治

三谷 卓, 藤野 明
 上田 雅俊, 亀井 崇
 中尾 昌彦, 牧谷 弘幸
 前野 隆, 松村 誠一
 東 真一郎
 以上 H. 24. 4. 1付
 附属病院経営改善委員会委員 高須 聡
 H. 24. 5. 24付

第一学年 学年指導教授 藤原 眞一
 助言教員 李 嘉永, 一宮 正義

牧田 佳真, 津田 進
 檜枝 洋記, 岡村 英幸
 野田 知宣, 藤田 淳一

第二学年 学年指導教授 武田 昭二
 助言教員 戸田 伊紀, 上村 守

中塚美智子, 乾 千珠子
 平野俊一朗, 藤本 哲也
 合田 征司, 吉川 美弘

第三学年 学年指導教授 西川 泰央
 助言教員 西川 哲成, 和唐 雅博

戸田 雅裕, 大谷 政博
 真下 千穂, 南部 隆之
 橋本 典也, 土居 貴士

第四学年 学年指導教授 有田 憲司
 助言教員 川崎 弘二, 河野 智生

吉川 直子, 楠本 哲次
 田中 順子, 松本 和浩
 四井 資隆, 安東佳代子

第五学年 学年指導教授 山本 一世
 特別アドバイザー

谷本 啓彰, 馬場 忠彦
 高橋 一也, 西崎 宏
 吉峰 茂樹, 吉田 博昭

大西 祐一, 居波 薫
 護邦 英俊, 原田 京子
 古跡 孝和

第六学年 学年指導教授 林 宏行
 学年副指導教授 梅田 誠

特別アドバイザー

竹村 明道, 上田 甲寅
 富永 和也, 諏訪部 武
 田村 功, 篠原 光子

山根 一芳, 今井 弘一
 大島 浩, 三宅 達郎
 吉川 一志, 吉田 匡宏
 田口洋一郎, 樋口 裕一

佐藤 正樹, 兼平 治和
 井関 富雄, 中嶋 正博
 飯田 拓二, 嘉藤 幹夫
 加藤 裕彦
 以上 H. 24. 4. 1付

教育アドバイザー

第一、第二、第三、第四、第六学年

第五学年

王 宝禮
 有田清三郎
 以上 H. 24. 4. 1付

学友会会長

学友会副会長

松本 尚之
 岡崎 定司
 以上 H. 24. 4. 1付

大阪歯科大学附属病院歯科医師臨床研修プログラム

総括責任者

副総括責任者

覚道 健治
 森田 章介, 林 宏行
 田中 昌博

院内研修担当者部会長

院外研修担当者部会長

保存系責任者

補綴系責任者

口腔外科系責任者

単独型プログラム責任者

単独型副プログラム責任者

複合型プログラム責任者

複合型副プログラム責任者

谷本 啓彰, 畠 銀一郎
 河野 智生, 高橋 一也
 楠本 哲次, 西崎 宏
 吉田 博昭, 中嶋 正博
 西浦 亜紀

指導歯科医 (単独型)

小川 文也, 大井 治正
 北野 忠則, 菊池 優子
 吉川 一志, 谷本 啓彰
 畠 銀一郎, 至田 宗泰
 高津 兆雄, 河野 智生
 柿本 和俊, 伊崎 克弥
 楠本 哲次, 鳥井 克典
 西崎 宏, 吉峰 茂樹
 吉田 博昭, 中嶋 正博
 飯田 拓二, 古跡 孝和
 嘉藤 幹夫, 百田 義弘
 井上 雅裕, 米田 護
 米谷 裕之

指導歯科医 (複合型)

岩田 有弘, 吉川 一志
 鈴木康一郎, 西田 尚敬
 竹内 撰, 保尾 謙三
 宮地 秀彦, 馬場 忠彦
 好川 正孝, 至田 宗泰
 西川 郁夫, 池永 英彰
 稲本 雄之, 高津 兆雄
 緒方智壽子, 民上 良将
 田口洋一郎, 柿本 和俊
 伊崎 克弥, 樋口 裕一
 小野 圭昭, 井上 太郎
 川本 章代, 田中 栄士
 渋谷 友美, 佐藤 正樹
 鳥井 克典, 土佐 淳一
 田中 順子, 藤井 孝政
 大河 貴久, 兼平 治和
 吉峰 茂樹, 山本さつき
 土居 聖, 前田 武志
 坂井 大吾, 小正 聡
 井関 富雄, 田伏 信
 松本 和浩, 山田 耕治
 佐野 寿哉, 福田あおい
 大西 祐一, 堀井 活子
 窪 寛仁, 後藤 基宏
 正重 裕一, 蠅庭 秀也
 飯田 拓二, 永木恵美子
 永田 雄己, 古跡 孝和
 板垣 恵輔, 四井 資隆
 蒲生 祥子, 秋山 広徳
 嘉藤 幹夫, 大東 希好
 原田 京子, 竹安 正治
 園本 美恵, 人見さよ子
 篠永ゆかり, 百田 義弘
 佐久間泰司, 加藤 裕彦
 安東佳代子, 岸本 直隆
 新井 是宣, 金平裕久美
 山田 裕, 米田 護
 上村 直也, 松本 晃一
 永目 誠吾, 米谷 裕之
 樋口 恭子, 辰巳 浩隆
 辻 一起子, 大西 明雄
 以上 H. 24. 4. 1付

講師(非常勤)委嘱

解剖学講座

清水 孝治, 蔵前 勝彦
 疋田 芳寛, 島田 純治
 中村 雅彦, 江原 雄二

	大塚 拓三, 中道 哲 牧草 一人, 三宅 晴記 藤原 成樹, 松川 信夫 中辻 勇志, 池 宏海 田中 毅彦, 大野久美子 江原 大輔, 安田久理人		松野 吉晃, 小幡 登 中沢 賢一, 廣畑 顕一 森 直樹, 石原 研 水川 健司, 西川 博之 加藤 秀治, 本山 浩司 西村 耕一, 石田 哲也 河合 博, 河合 高弘 佐川 寛一
口腔解剖学講座	鄭 在泳, 多田 逸 荻田 雄紀, 山本 洋幸 松田 哲一, 椿井 孝芳 朱 成淑, 藤原 士郎 Rogelio J. Scougall Vilchis 藤本 嘉治, 富永 康彦 脇坂 聡, 三上 淑子 三上 博子	薬理学講座	石川 協, 大草 修 森川 裕, 岡本 卓士 九門 好彦, 井上 博明 吉岡 三四, 宮田 敏生 坂本 伸人, 武内信二郎 高山 昭則, 河野 元一 村川 昇, 狭川 正 林 昭典, 野阪ひとみ 日高 厚, 岩本 一哉 太田 努
生理学講座	芳本 忍, 榎村 光仁 長谷川彰則, 高井 規安 稲田 條治, 小山 なつ 吉村 佳博, 岩崎 精彦 宮尾 治樹, 村上 浩孝 岩住 征紀, 森 明彦 久保 研, 大塚 俊裕 田中 一弘, 吉野修一郎 辻 洋一	歯科理工学講座	川原 大, 片岡 喜平 三浦 康伸, 森口 泰成 上田 明博, 笈 晋平
生化学講座	長澤 成明, 畑下 芳史 高石 佳知, 小坂 広之 高屋 毅史, 中川 雅夫 伊東 禎雄, 倉阪 雅巳 有山金一郎, 岩佐 勝也 田中 義人, 天方 靖治 前田潤一郎, 上野 眞徳 逸崎 宏, 野口 薫	口腔衛生学講座	奥 忠之, 白石 雅照 今井 意晴, 野村 一夫 尾辻 淳, 藤井 由希 中川 哲也, 森野与史緒 熊崎 眞義, 村田 省三 井上 富夫, 小林 正憲 岡村 伸江, 奥村 信 日吉 紀子, 伊津 元博 平塚 靖規, 生内 信男 高島隆太郎, 西川 学
口腔病理学講座	奥野 夏樹, 前田満里子 新谷 牧, 岡村 敬次 松井 正剛, 川口 佳夫 武田 良一, 東浦 宏守 和田 聖二, 河原 康二 佐久間 勲, 筒井 淳 西村 泰典, 畑 慎太郎 堀 晋作, 田中 淳司 段 充, 川崎 昌英	歯科保存学講座	福井 敬和, 井上 昌孝 谷 哲, 南 昌宏 藤原 秀樹, 三木 秀治 河村 昌哲, 藤田 昌弘 吉原 正晃, 妻野 純朗 廣瀬 泰明, 砂田 和久 廣瀬沙耶佳, 林原 久盛 岩本 圭司, 白石 充 大前 正範, 初岡 昌憲
細菌学講座	伊藤 康夫, 藤田 康一 山本 範子, 吉竹 弘行	口腔治療学講座	奥野 一吉, 細見 環 速水 茂, 巖 恭輔

上村 学, 寺田 行男
 金村 成智, 河津 正文
 薄 孝, 逸見 浩史
 木村 喜彦, 上田 佳世
 辻 一郎, 吉川 伸
 堀 宏之, 松田 孝之
 下村 容規, 柿木 栄幸
 藤平 智広

歯周病学講座

橋本 光示, 本城 範典
 神田 浩, 大塚 健司
 林 正純, 英保 武志
 寺西 義浩, 岡西 裕公
 釜谷 晋平, 白井 健雄
 南林 繁良, 中垣 直毅
 光山 誠, 松田 正文
 福永 剛士, 丹田 博巳
 小池 敏克, 富井裕紀子
 寺田昌一郎, 上田 実果

高齢者歯科学講座

亀水 忠茂, 宮 博文
 山田 昭治, 浅井 加雄
 松尾 光至, 大槻 榮人
 田中 球生, 原 佳代子
 右遠 英悟, 額田 和門
 芦田 貴司, 北山 展弘
 浅井 崇嗣, 上田 章浩
 水見 彰敏, 藤岡宗之輔
 西岡 良子, 亀水 忠宗

有歯補綴咬合学講座

辻 功, 太田 邦雄
 河野 亘, 水井 雅則
 柳田 昌宏, 長砂 孝
 徳永 徹, 仲西 健樹
 田中 誠也, 今井 敦子
 上田 直克, 佐古 好正
 木村 公一, 朴 康鉦
 林 明輝, 谷岡 款相
 疋田 陽造, 鷹尾 智典
 朴 燦眞

欠損歯列補綴咬合学講座

加藤 信次, 吉田 和也
 奥田 昌義, 三谷 徹
 吉峰美千代, 奥田 啓之
 藤原 到, 恩地 良幸
 池田 直也, 西川 敏文
 吉川 洋史, 岡本 吉宏

島谷 肇, 上り口晃成
 呉本 晃一, 嶋村 清次
 小林 将之, 村松 豪太
 田村 佳則, 江藤 隆仁

口腔外科学第一講座

連 利隆, 島 盛隆
 大石 建三, 大杉 泰敏
 栗林 信仁, 佐々木 昇
 酒匂 潤, 小渕 匡清
 植野 茂, 卞 勝人
 黒田 卓, 篠田 豊
 木下 智, 松本 康宏
 小川裕美子, 福地 和秀
 坂田 岳一, 白尾浩太郎
 紙谷 仁之, 岩井 理恵

口腔外科学第二講座

仁木 寛, 有家 巧
 角熊 雅彦, 赤根 昌樹
 杉立 光史, 柚木 大和
 郷 真奈武, 林 秀一
 鹿野 学, 山崎 行庸
 岩崎 春美, 栗田 賢一
 濱本 和彦, 阪本 貴司
 本橋 具和, 高橋 典章
 森 悠衣, 山本 浩貴
 森下 寛史

歯科矯正学講座

大浦 寿哉, 犬伏 俊嗣
 中川 学, 高橋 啓
 山田 尋士, 大塚 重雄
 金 錫俊, 関 詔夫
 長屋 和也, 岡林 聰
 速水 勇人, 本田 領
 山本 昌宏, 岡下慎太郎
 荒垣 芳元, 太田千佳子
 蓮舎 寛樹, 林 和夫
 上杉 美香, 片尾 祐子

歯科放射線学講座

内海 潔, 江原 昌弘
 川植 康史, 室井 誠
 松本 義之, 釜田 博史
 川崎 靖典, 坂本 健吾
 林 靖久

小児歯科学講座

池本 博之, 石井 信行
 大道 士郎, 大谷 敬三
 梶本祐一郎, 嘉ノ海龍三

佐伯 克彦, 白敷 慎也
 高松 恒美, 大東 美穂
 中村 弘之, 濱田 義彦
 原 直仁, 保澤 静
 松尾 博之, 山尾 雅朗
 渡邊 景子, 渡邊 記代
 深尾 正, 中野 智子

歯科麻酔学講座 赤塚 正文, 山下 智章
 足立 了平, 河合 峰雄
 内海 潤, 水野 誠
 姜 由紀, 釜田 隆
 安留 輝之, 松田 佳子
 孫 弘樹, 弘兼 素子
 安東 大器, 杉岡 伸悟
 徳永 敦, 大草 知佳

内科学講座 濱中大三郎, 岡崎 俊朗
 梅原 久範, 米田 修
 薬師寺健太郎, 奥田 恵子
 宮地 理彦, 原川 奈梨
 金下 祐己, 森口久美子

講座教室外
 小児科 住本 真一
 外科 中村 肇
 精神科 上野 千穂
 法医学・法歯学 医事法制
 池谷 博, 吉本 寛司
 小林 正樹, 一家 綱邦
 法医学・法歯学 高坂 友和
 法医学・法歯学 医事法制 宮森 大輔
 基礎情報科学 福森俊一郎, 野村 孝久
 英語基礎講読 平田 和彦, 片岡 宏仁
 上級会話・リスニング LEVESQUE Gerard Pierre
 英語 上級会話・リスニング Eric Schoenbrunn
 英語 Bernard MacMugen
 ドイツ語 武田 良材, 大森 智子
 文章学国学 石黒 義昭
 体育実技 福田 厚治, 山田なおみ
 出井 章雅
 心理学 永石 高敏, 鈴木 まや
 高岡 祥子
 社会学 平 英美
 物理学 守安 毅
 美術 柿本 香, 仲地加奈子

青井 恵子

兼担者
 眼科学 岸本 直子
 口腔インプラント学 馬場 俊輔, 井上 雅裕
 歯科審美学 末瀬 一彦
 臨床直前教育 小出 武
 以上 H. 24. 4. 1付

大学院歯学研究科
 解剖学 江原 大輔
 口腔解剖学 朱 成淑, 脇坂 聡
 細矢 明宏
 病理学 山根木康嗣, 木村 彩子
 岡村 友玄
 細菌学 古川 智代, 小川 歆
 薬理学 中川 秀幸
 口腔衛生学 安藤 昌俊, 田中 秀直
 西田 侑平, 大橋 晶子
 歯内治療学 柿木 栄幸
 歯周病学 能登原靖宏, 安井菜津希
 重松 伸寛, 小木曾一貴
 野口三智子

高齢者歯科学 岩山 和史, 上杉 直斗
 吉岡 正隆, 永目 誠典
 大郷 友規

有歯補綴咬合学 龍田 光弘, 鶴身 暁子
 糸田 昌隆, 柏木 宏介

欠損歯列補綴咬合学 奥田 恵司, 加藤 尚
 松野 彰仁, 三田 悟司

口腔外科学(第一) 志水 秀郎, 北郷 明成
 中川 誠仁, 松田彩起子
 林 輝嘉

口腔外科学(第二) 中田 研, 野崎 正美
 飯田 征二, 濱田 悠里
 濱田吉之輔

小児歯科学
 歯科麻酔学 金銅 英二, 金田 一弘
 稲村 吉高, 大西 杏奈
 森口久美子

内科学 以上 H. 24. 4. 1付

歯科技工士専門学校講師(非常勤)
 長家 秀博, 山田なおみ, 佐ノ木幸夫
 藤田 淳一, 吉田 隆志, 武田 昭二
 橋本 典也, 都賀谷紀宏, 諏訪 文彦
 竹村 明道, 戸田 伊紀, 上村 守
 岩井 康智, 隈部 俊二, 中塚美智子

飯田 慈子, 藤原 眞一, 川合進二郎
 檜 則章, 西川 泰央, 池尾 隆
 田中 昭男, 福島 久典, 神原 正樹
 田中 昌博, 楠本 哲次, 田中 順子
 佐藤 正樹, 馬場 俊輔, 佐藤 琢也
 岡崎 定司, 西崎 宏, 土居 聖
 小正 裕, 樋口 裕一, 松本 尚之
 飯田 拓二, 竹安 正治, 山本 一世
 鈴木康一郎, 清水谷公成, 覚道 健治
 森田 章介, 安東佳代子, 山下 恒彦
 方 一如, 高橋 恵美, 内木 雄一
 篠崎 照泰, 菊田 茂, 小山 和美
 吐山 寛, 齋藤 俊文, 堀内 賢
 武森 政文, 中辻 孝一, 木村 洋三
 西村 元彦, 明崎 納, 林 美己
 東 宗秀, 弓場 信三, 内藤 徹
 以上 H. 24. 4. 1付

歯科衛生士専門学校講師(非常勤)

川合進二郎, 檜 洋記, 岡村 英幸
 藤原 眞一, 飯田 慈子, 檜 則章
 中前 純治, 石黒 義昭, 谷 康平
 佐ノ木幸夫, 藤田 淳一, 長家 秀博
 福田 厚治, 諏訪 文彦, 竹村 明道
 戸田 伊紀, 上村 守, 前田 光代
 西川 泰央, 内橋 賢二, 池尾 隆
 鎌田 愛子, 田村 功, 合田 征司
 岩井 康智, 隈部 俊二, 中塚美智子
 田中 昭男, 西川 哲成, 福島 久典
 山中 武志, 南部 隆之, 大浦 清
 篠原 光子, 戸田 雅裕, 神原 正樹
 三宅 達郎, 川崎 弘二, 土居 貴士
 上根 昌子, 小谷順一郎, 佐久間泰司
 中村 亜紀, 今西 秀明, 福井 和枝
 入江 隆子, 福澤美智子, 中塚美智子
 覚道 健治, 山本 一世, 林 宏行
 馬場 忠彦, 辻 則正, 梅田 誠
 吉川 直子, 小正 裕, 柿本 和俊
 田中 昌博, 田中 順子, 鳥井 克典
 藤井 孝政, 大河 貴久, 岡崎 定司
 西崎 宏, 前田 武志, 土居 聖
 森田 章介, 田伏 信, 有田 憲司
 嘉藤 幹夫, 竹安 正治, 松本 尚之
 永木恵美子, 東山 朋代, 濱本 愛子
 山下 政代, 臼本 鏡子, 清水谷公成
 秋山 広徳, 小出 武, 米谷 裕之
 辻 一起子, 川原 幹夫, 武田 昭二

大島 浩, 糸田 昌隆, 方 一如
 宮本美千子, 藤林由利安, 高田橋美幸
 南部 智子, 隅田 好美, 笠原 幸子
 森田婦美子, 張木 康代, 木村 葉子
 筒井 睦, 馬場 俊輔, 井上 雅裕
 前田留美子, 村田 圭美, 木野本亜友未
 以上 H. 24. 4. 1付



あとがき



—余談—

平成24年度大学・大学院ならびに専門学校の入学式を始め、学内監査も滞りなく遂行できたことは、皆様のご努力、ご協力の賜物であります。

国内外の景気は相変わらず不調で、大学を取り巻く環境も一段と厳しいものですが、大阪歯科大学に係る全ての人々が一丸となって、この難局を乗り越えようではありませんか。

大阪歯科大学広報 第166号

発行日 平成24年6月30日

編集発行 広報委員会

〒573-1121 枚方市楠葉花園町8-1

電話 072-864-3111